

堺市北区
市民活動団体による多世代交流に関する
活動状況及び意向調査
最終報告書

平成30年9月

堺市北区

目 次

I	市民活動団体による多世代交流に関する活動状況及び意向調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	多世代交流の取組について	2
2	他の団体との連携について	14
3	情報の発信と収集について	23
4	その他関連事項について	28
III	調査結果からの現状・課題について	35
1	地域住民との関わりと多世代交流活動について	35
2	活動場所について	35
3	多世代交流を図る上で効果的な取組について	36
4	他団体・組織との連携について	36
5	情報の発信と収集について	37
6	団体の運営について	37
IV	多世代交流活動事例（団体ヒアリング調査）調査の概要	38
1	調査の目的	38
2	調査対象団体	38
3	調査期間	38
4	調査方法	38
5	多世代交流活動事例 ヒアリング結果	39
	(1) 地縁組織（連合・町会）	39
	(2) ボランティア団体	44
	(3) NPO法人	45

I 市民活動団体による多世代交流に関する活動状況及び意向調査の概要

1 調査の目的

区内で実施されている多世代交流の取組についての現状を把握し、今後の多世代交流・協生のまちづくりのあり方を検討していくための基礎資料とするため、調査を実施するものです。

2 調査対象

区内の地縁組織（連合・町会） … 各校区の自治連合会と全ての単位自治会

区内の地縁組織（各種団体） … 北区校区福祉委員会協議会、北区民生委員児童委員協議会、北区青少年指導員会、こども会育成協議会北ブロックこども会、北区老人クラブ連合会

区内で活動するボランティア団体 … 社会福祉協議会北区事務所に登録のある団体

区内で活動するNPO法人 … 北区内に事務所を置くNPO法人

3 調査期間

平成30年5月11日から平成30年5月28日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
地縁組織（連合・町会）	209通	157通	75.1%
地縁組織（各種団体）	5通	5通	100.0%
ボランティア団体	73通	57通	78.1%
NPO法人	59通	27通	45.8%
合計	346通	246通	71.1%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

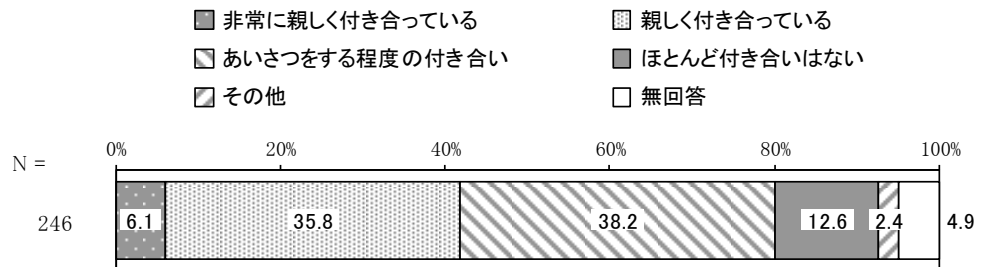
II 調査結果

1 多世代交流の取組について

問 貴団体が活動する地域の住民同士の関わりあいの程度はいかがですか。
(1つに○)

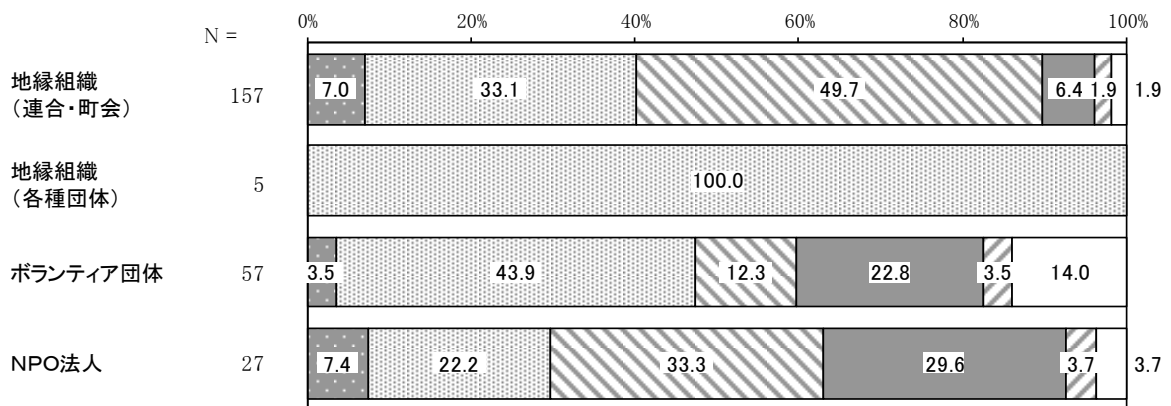
【全体】

「あいさつをする程度の付き合い」の割合が38.2%と最も高く、次いで「親しく付き合っている」の割合が35.8%、「ほとんど付き合いはない」の割合が12.6%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、ボランティア団体で「親しく付き合っている」の割合が、地縁組織（連合・町会）で「あいさつをする程度の付き合い」の割合が高くなっています。また、NPO法人で「ほとんど付き合いはない」の割合が高くなっています。



【その他意見】

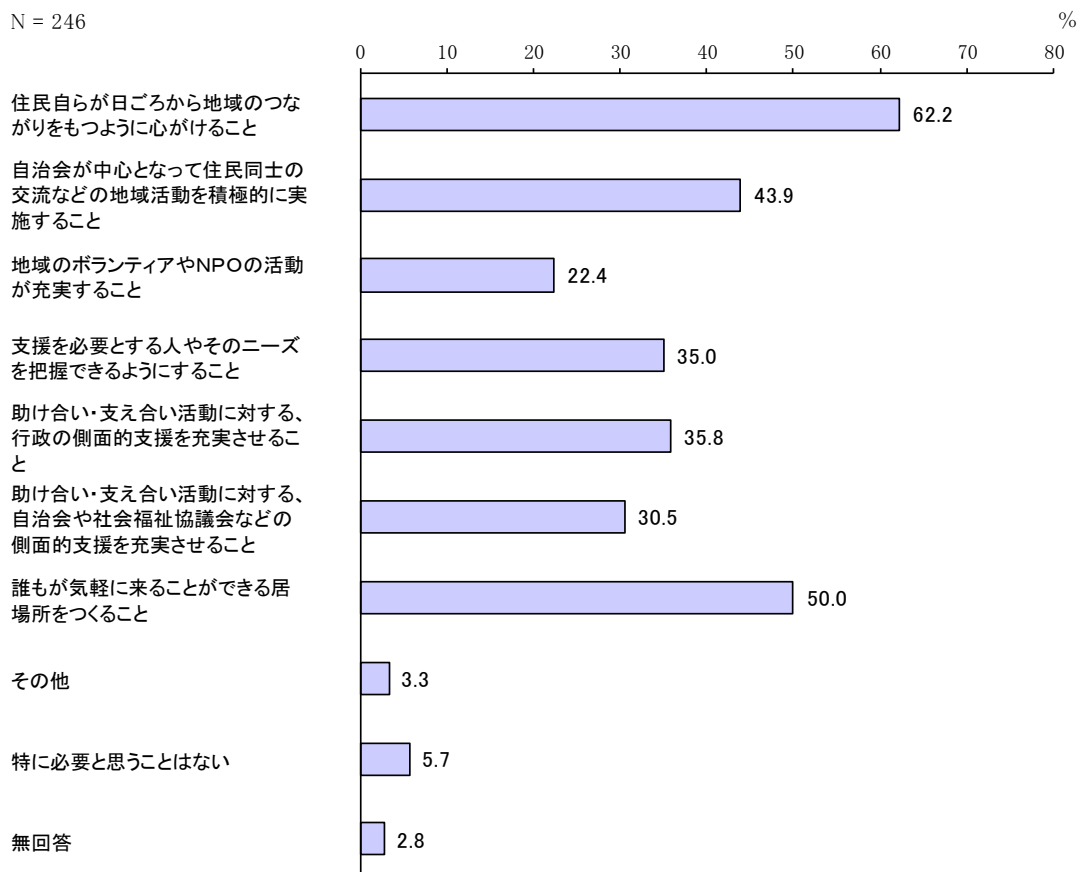
- ・地域の中でもバラツキがあり、程度は混在している。
- ・若い世代、旧世代で差が出てきている。

問 貴団体が活動する地域の住民同士の関わりあいを深めていくために必要だと思うことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「住民自らが日ごろから地域のつながりをもつように心がけること」の割合が62.2%と最も高く、次いで「誰もが気軽に來ることができる居場所をつくること」の割合が50.0%、「自治会が中心となって住民同士の交流などの地域活動を積極的に実施すること」の割合が43.9%となっています。

N = 246



【住民同士の関わりあいの程度別クロス集計】

住民同士の関わりあいの程度別でみると、関わりが深くなるほど「自治会が中心となって住民同士の交流などの地域活動を積極的に実施すること」「地域のボランティアやNPOの活動が充実すること」「誰もが気軽に来ることができる居場所をつくること」の割合が高くなっています。また、ほとんど付き合いはないで「特に必要と思うことはない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	住民自らが日ごろから地域のつながりをもつように心がけること	自治会が中心となって住民同士の交流などの地域活動を積極的に実施すること	地域のボランティアやNPOの活動が充実すること	支援を必要とする人やそのニーズを把握できるようにすること	行政の側面的支援を充実させること	助け合い・支え合い活動に対する、行政の側面的支援を充実させること	助け合い・支え合い活動に対する、自治会や社会福祉協議会などの側面的支援を充実させること	助け合い・支え合い活動に対する、自治会や社会福祉協議会などの側面的支援を充実させること	誰もが気軽に来ることができる居場所をつくること	その他	特に必要と思うことはない	無回答
非常に親しく付き合っている	15	53.3	60.0	33.3	20.0	40.0	33.3	66.7	6.7	6.7	—	—	—
親しく付き合っている	88	72.7	54.5	26.1	42.0	40.9	43.2	56.8	3.4	2.3	—	—	—
あいさつをする程度の付き合い	94	64.9	43.6	22.3	35.1	40.4	25.5	44.7	1.1	5.3	2.1	2.1	2.1
ほとんど付き合いはない	31	38.7	25.8	16.1	25.8	12.9	12.9	38.7	3.2	19.4	3.2	3.2	3.2
その他	6	50.0	16.7	—	33.3	33.3	33.3	83.3	33.3	—	—	—	—

【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「住民自らが日ごろから地域のつながりをもつように心がけること」「自治会が中心となって住民同士の交流などの地域活動を積極的に実施すること」「助け合い・支え合い活動に対する、自治会や社会福祉協議会などの側面的支援を充実させること」「誰もが気軽に來ることができる居場所をつくること」の割合が、NPO法人で「地域のボランティアやNPOの活動が充実すること」「助け合い・支え合い活動に対する、行政の側面的支援を充実させること」の割合が高くなっています。また、地縁組織（連合・町会）、NPO法人で「支援を必要とする人やそのニーズを把握できるようにすること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	住民自らが日ごろから地域のつながりをもつように心がけること	自治会が中心となって住民同士の交流などの地域活動を積極的に実施すること	地域のボランティアやNPOの活動が充実すること	支援を必要とする人やそのニーズを把握できるようにすること	助け合い・支え合い活動に対する、行政の側面的支援を充実させること	助け合い・支え合い活動に対する、自治会や社会福祉協議会などの側面的支援を充実させること	誰もが気軽に來ることができる居場所をつくること	その他	特に必要と思うことはない	無回答
地縁組織（連合・町会）	157	68.8	52.9	20.4	36.9	39.5	34.4	55.4	2.5	5.1	1.3
地縁組織（各種団体）	5	60.0	60.0	40.0	80.0	40.0	60.0	60.0	—	—	—
ボランティア団体	57	45.6	29.8	21.1	24.6	21.1	19.3	43.9	7.0	8.8	7.0
NPO法人	27	59.3	18.5	33.3	37.0	44.4	25.9	29.6	—	3.7	3.7

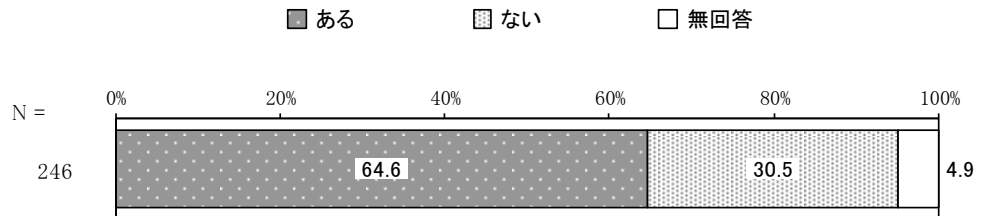
【その他意見】

- ・古い体質を洗い直し、イノベーションすること。

問 多世代交流につながる活動を行ったことはありますか。(1つに○)

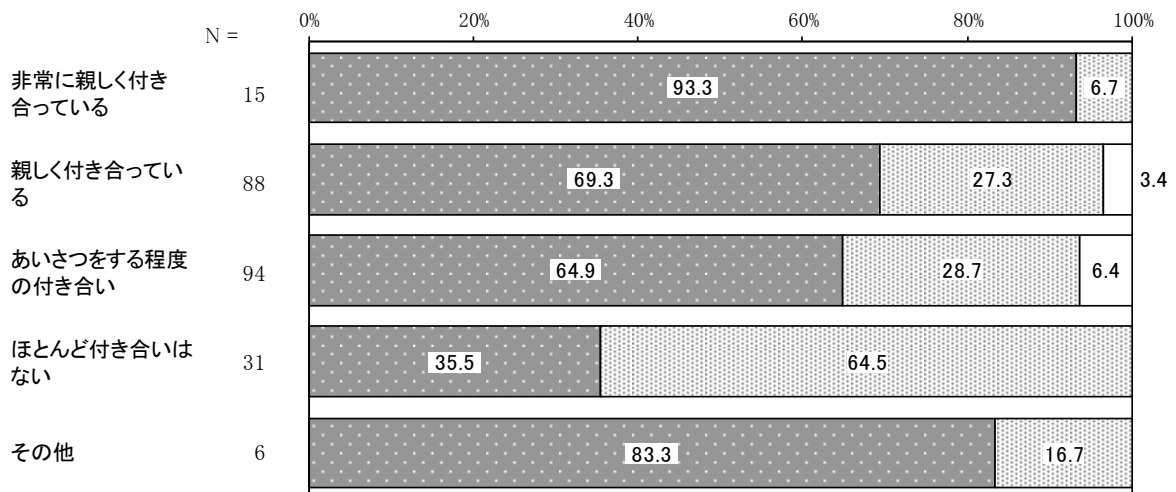
【全体】

「ある」の割合が64.6%、「ない」の割合が30.5%となっています。



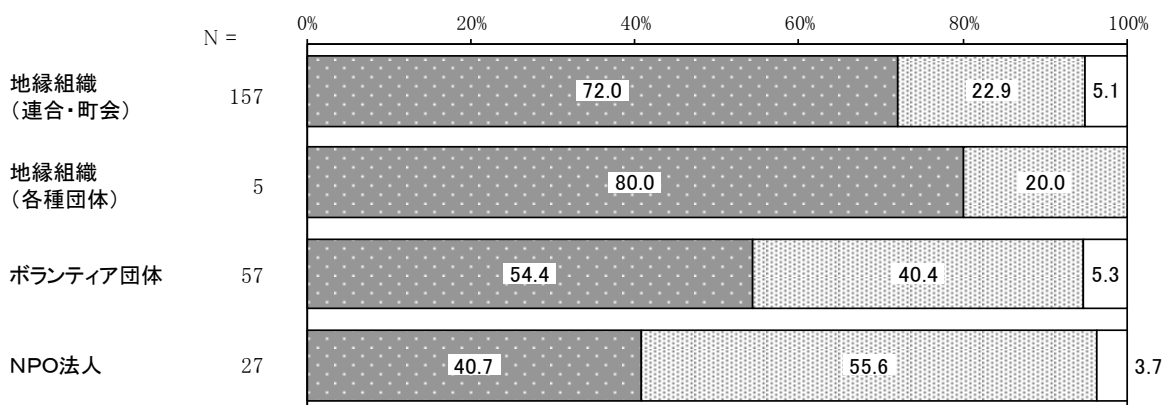
【住民同士の関わりあいの程度別クロス集計】

住民同士の関わりあいの程度別で見ると、関わりが深くなるほど「ある」の割合が高くなっています。



【団体別】

団体別で見ると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「ある」の割合が高くなっています。また、NPO法人で「ない」の割合が高くなっています。

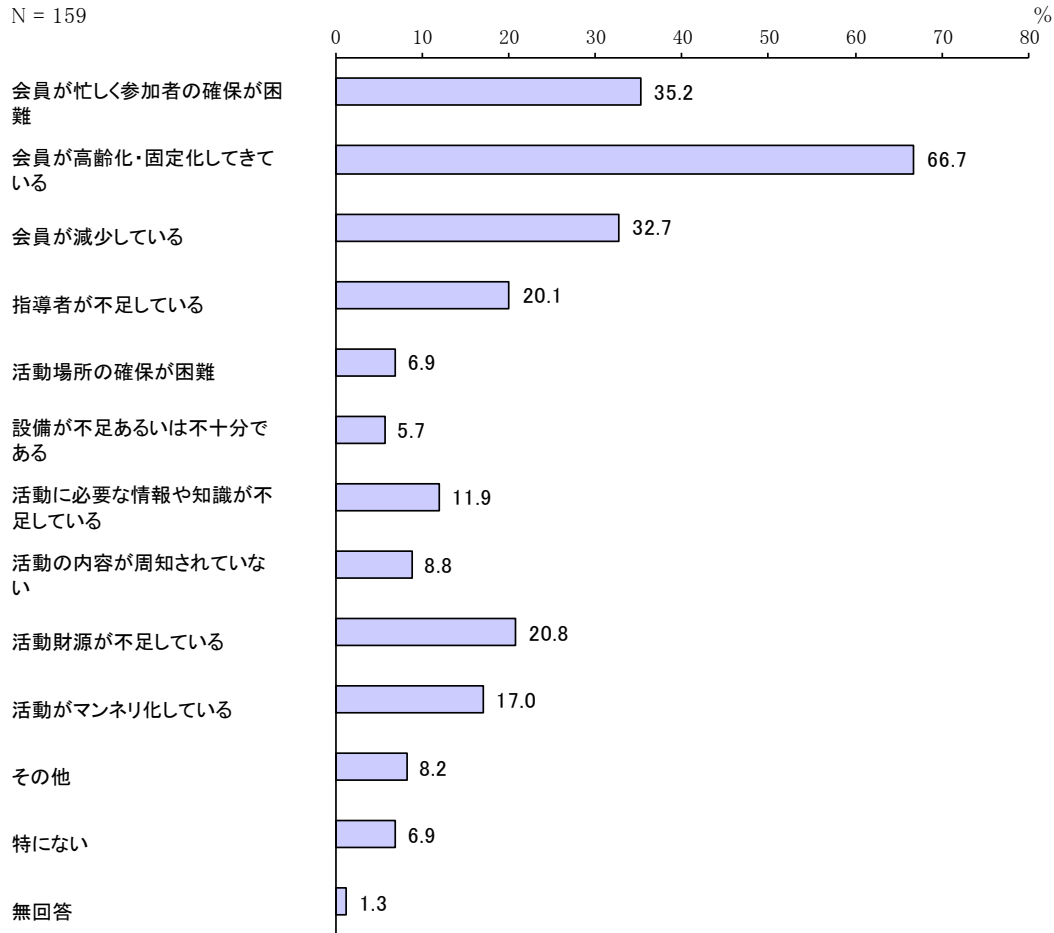


問 前問で「1. ある」に○をつけた団体のみお答えください。上記の活動を進めていく上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「会員が高齢化・固定化してきている」の割合が66.7%と最も高く、次いで「会員が忙しく参加者の確保が困難」の割合が35.2%、「会員が減少している」の割合が32.7%となっています。

N = 159



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「会員が忙しく参加者の確保が困難」「会員が高齢化・固定化してきている」「会員が減少している」「活動に必要な情報や知識が不足している」「活動がマンネリ化している」の割合が高くなっています。また、NPO法人で「活動場所の確保が困難」「活動財源が不足している」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	会員が忙しく参加者の確保が困難	会員が高齢化・固定化してきている	会員が減少している	指導者が不足している	活動場所の確保が困難	設備が不足あるいは不十分である	活動に必要な情報や知識が不足している	活動の内容が周知されていない	活動財源が不足している	活動がマンネリ化している	その他	特にない	無回答
地縁組織（連合・町会）	113	42.5	77.0	35.4	21.2	7.1	6.2	14.2	8.8	23.0	18.6	6.2	4.4	—
地縁組織（各種団体）	4	25.0	50.0	75.0	25.0	25.0	—	50.0	50.0	50.0	25.0	25.0	—	—
ボランティア団体	31	19.4	48.4	25.8	16.1	—	6.5	3.2	3.2	3.2	12.9	16.1	16.1	3.2
NPO法人	11	9.1	18.2	9.1	18.2	18.2	—	—	9.1	36.4	9.1	—	9.1	9.1

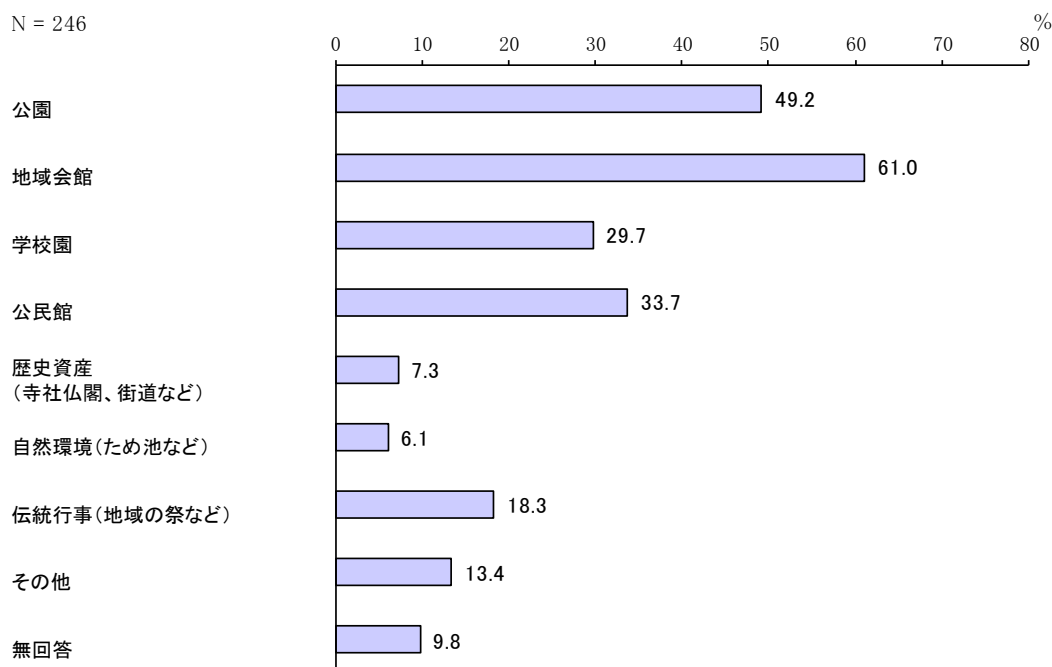
【その他意見】

- ・子どもを対象とした活動の場合、塾やクラブ活動で子どもが忙しくなっており、参加が少なくなっている。

問 貴団体の活動する地域の資源で多世代交流に活用できるものは何がありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

【全体】

「地域会館」の割合が61.0%と最も高く、次いで「公園」の割合が49.2%、「公民館」の割合が33.7%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「地域会館」「学校園」「伝統行事（地域の祭など）」の割合が、ボランティア団体で「公民館」の割合が、NPO法人で「自然環境（ため池など）」の割合が高くなっています。また、地縁組織（連合・町会）、NPO法人で「公園」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	公園	地域会館	学校園	公民館	歴史資産 (寺社仏閣、街道など)	自然環境 (ため池など)	伝統行事 (地域の祭など)	その他	無回答
地縁組織 (連合・町会)	157	56.1	65.0	31.2	26.1	7.0	5.7	19.7	14.0	8.3
地縁組織 (各種団体)	5	60.0	80.0	80.0	20.0	20.0	—	60.0	—	20.0
ボランティア団体	57	26.3	57.9	28.1	57.9	8.8	5.3	14.0	17.5	12.3
NPO法人	27	55.6	40.7	14.8	29.6	3.7	11.1	11.1	3.7	11.1

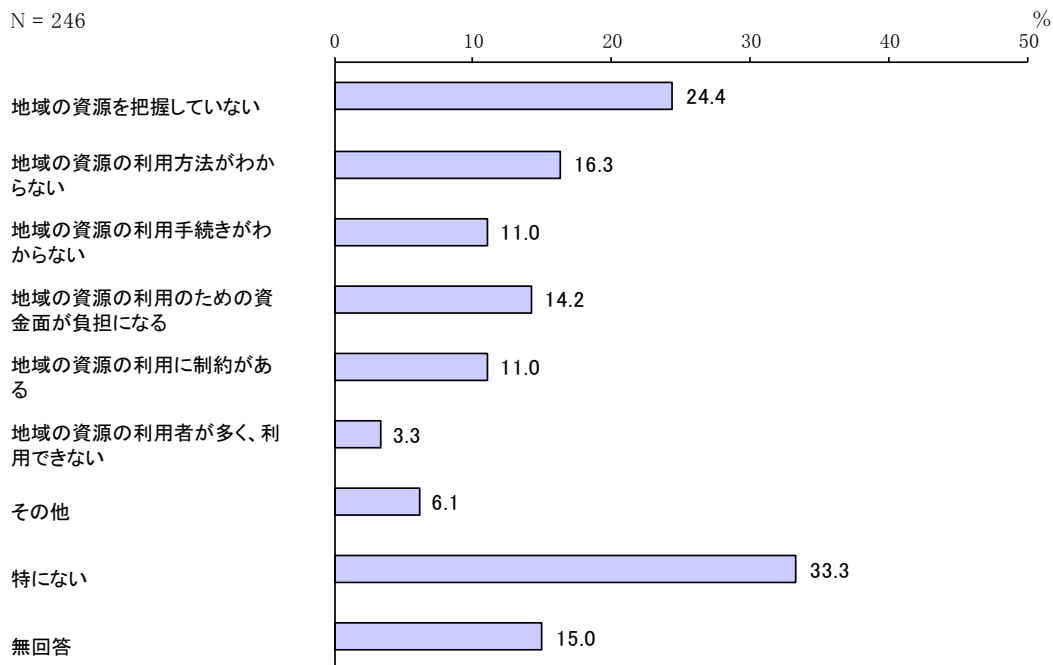
【その他意見】

- ・町会館、町グラウンド
- ・集会所
- ・地域内にグラウンド地が整備されている。
- ・ふれあい広場

問 地域の資源を活用していくにあたり、どのような問題・課題がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「特にない」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「地域の資源を把握していない」の割合が 24.4%、「地域の資源の利用方法がわからない」の割合が 16.3%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「地域の資源の利用のための資金面が負担になる」の割合が高くなっています。また、NPO法人で「地域の資源を把握していない」「地域の資源の利用に制約がある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	地域の資源を把握していない	地域の資源の利用方法がわからない	地域の資源の利用手続きがわからない	地域の資源の利用のための資金面が負担になる	地域の資源の利用に制約がある	地域の資源の利用者が多く、利用できない	その他	特になし	無回答
地縁組織（連合・町会）	157	24.2	16.6	10.2	16.6	8.9	3.2	5.1	37.6	12.1
地縁組織（各種団体）	5	40.0	20.0	20.0	40.0	60.0	20.0	20.0	—	20.0
ボランティア団体	57	22.8	14.0	10.5	10.5	10.5	3.5	5.3	31.6	21.1
NPO法人	27	25.9	18.5	14.8	3.7	14.8	—	11.1	18.5	18.5

【その他意見】

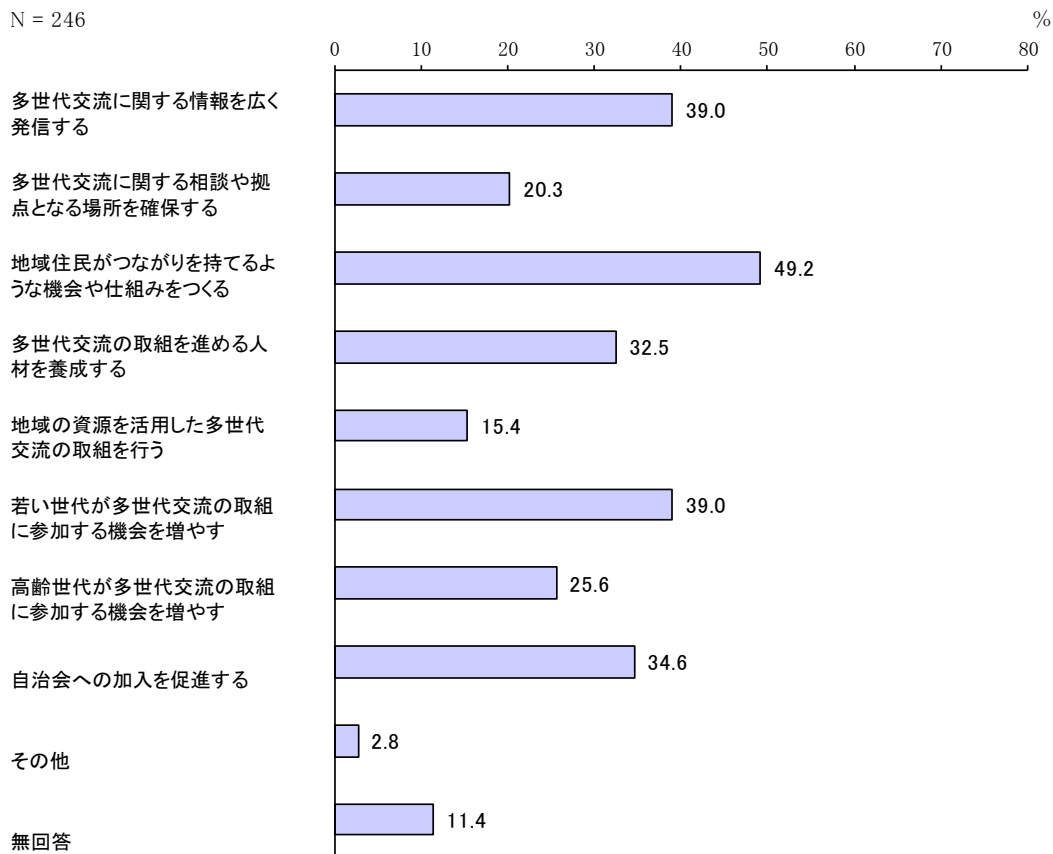
- ・公園はあるが、管理が不十分で活用できない。
- ・高齢者が自力で行ける距離にない。
- ・住民は年配者が多く行事を実施することは難しい。
- ・多世代交流に活用するアイデア不足。
- ・小学校の校庭開放について、部活動との兼ね合いや利用可能な日程が限られている。

問 多世代交流を図る上で効果的な取組は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「地域住民がつながりを持てるような機会や仕組みをつくる」の割合が49.2%と最も高く、次いで「多世代交流に関する情報を広く発信する」「若い世代が多世代交流の取組に参加する機会を増やす」の割合が39.0%となっています。

N = 246



【多世代交流につながる活動経験別クロス集計】

多世代交流につながる活動経験別でみると、活動経験がない団体に比べ、活動経験がある団体で「多世代交流に関する相談や拠点となる場所を確保する」「多世代交流の取組を進める人材を養成する」「地域の資源を活用した多世代交流の取組を行う」「若い世代が多世代交流の取組に参加する機会を増やす」「自治会への加入を促進する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	多世代交流に関する情報を広く発信する	多世代交流に関する相談や拠点となる場所を確保する	地域住民がつながりを持てるような機会や仕組みをつくる	多世代交流の取組を進める人材を養成する	地域の資源を活用した多世代交流の取組を行う	若い世代が多世代交流の取組に参加する機会を増やす	高齢世代が多世代交流の取組に参加する機会を増やす	自治会への加入を促進する	その他	無回答
ある	159	40.9	24.5	51.6	39.0	20.1	49.7	27.0	45.3	3.8	5.0
ない	75	40.0	14.7	49.3	22.7	8.0	21.3	24.0	17.3	1.3	14.7

【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「多世代交流に関する情報を広く発信する」「地域住民がつながりを持てるような機会や仕組みをつくる」「多世代交流の取組を進める人材を養成する」「若い世代が多世代交流の取組に参加する機会を増やす」「自治会への加入を促進する」の割合が、ボランティア団体で「地域の資源を活用した多世代交流の取組を行う」「高齢世代が多世代交流の取組に参加する機会を増やす」の割合が高くなっています。また、地縁組織（連合・町会）、ボランティア団体で「多世代交流に関する相談や拠点となる場所を確保する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	多世代交流に関する情報を広く発信する	多世代交流に関する相談や拠点となる場所を確保する	地域住民がつながりを持てるような機会や仕組みをつくる	多世代交流の取組を進める人材を養成する	地域の資源を活用した多世代交流の取組を行う	若い世代が多世代交流の取組に参加する機会を増やす	高齢世代が多世代交流の取組に参加する機会を増やす	自治会への加入を促進する	その他	無回答
地縁組織（連合・町会）	157	40.1	21.0	52.9	37.6	13.4	45.9	24.2	44.6	2.5	8.9
地縁組織（各種団体）	5	60.0	40.0	80.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	20.0	—
ボランティア団体	57	38.6	21.1	38.6	22.8	21.1	26.3	33.3	17.5	3.5	21.1
NPO法人	27	29.6	11.1	44.4	22.2	11.1	25.9	14.8	11.1	—	7.4

【その他意見】

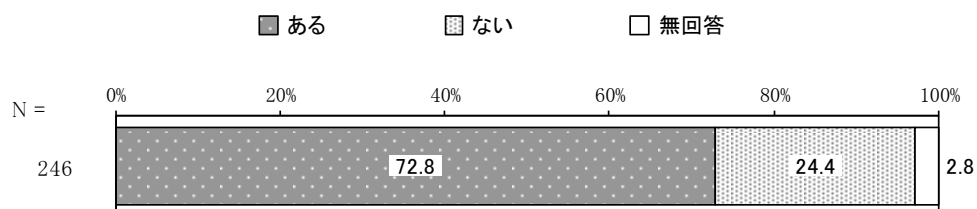
- ・子どもと親を巻き込んだ取組を進める。
- ・参加することでのメリットを明確にする。
- ・無償で楽しめる内容のイベントであれば、参加者は見込めるが、費用の増大という課題がある。

2 他の団体との連携について

問 他の団体・組織との協働・連携関係がありますか。(1つに○)

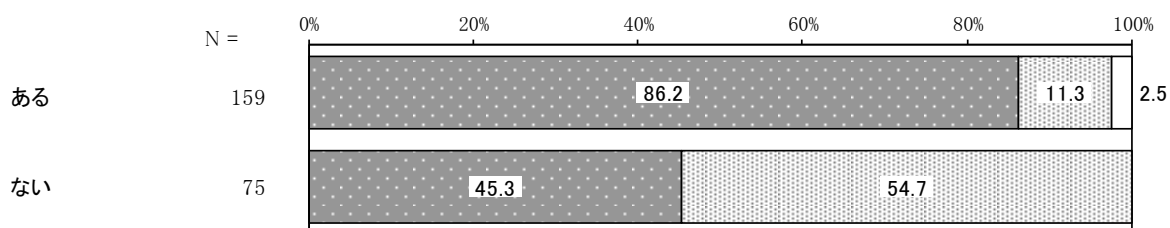
【全体】

「ある」の割合が72.8%、「ない」の割合が24.4%となっています。



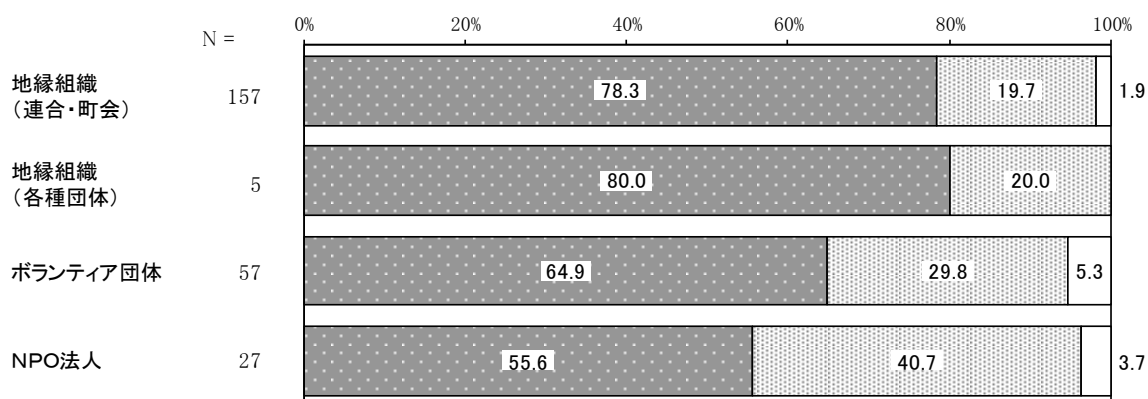
【多世代交流につながる活動経験別クロス集計】

多世代交流につながる活動経験別でみると、活動経験がない団体に比べ、活動経験がある団体で「ある」の割合が高くなっています。



【団体別】

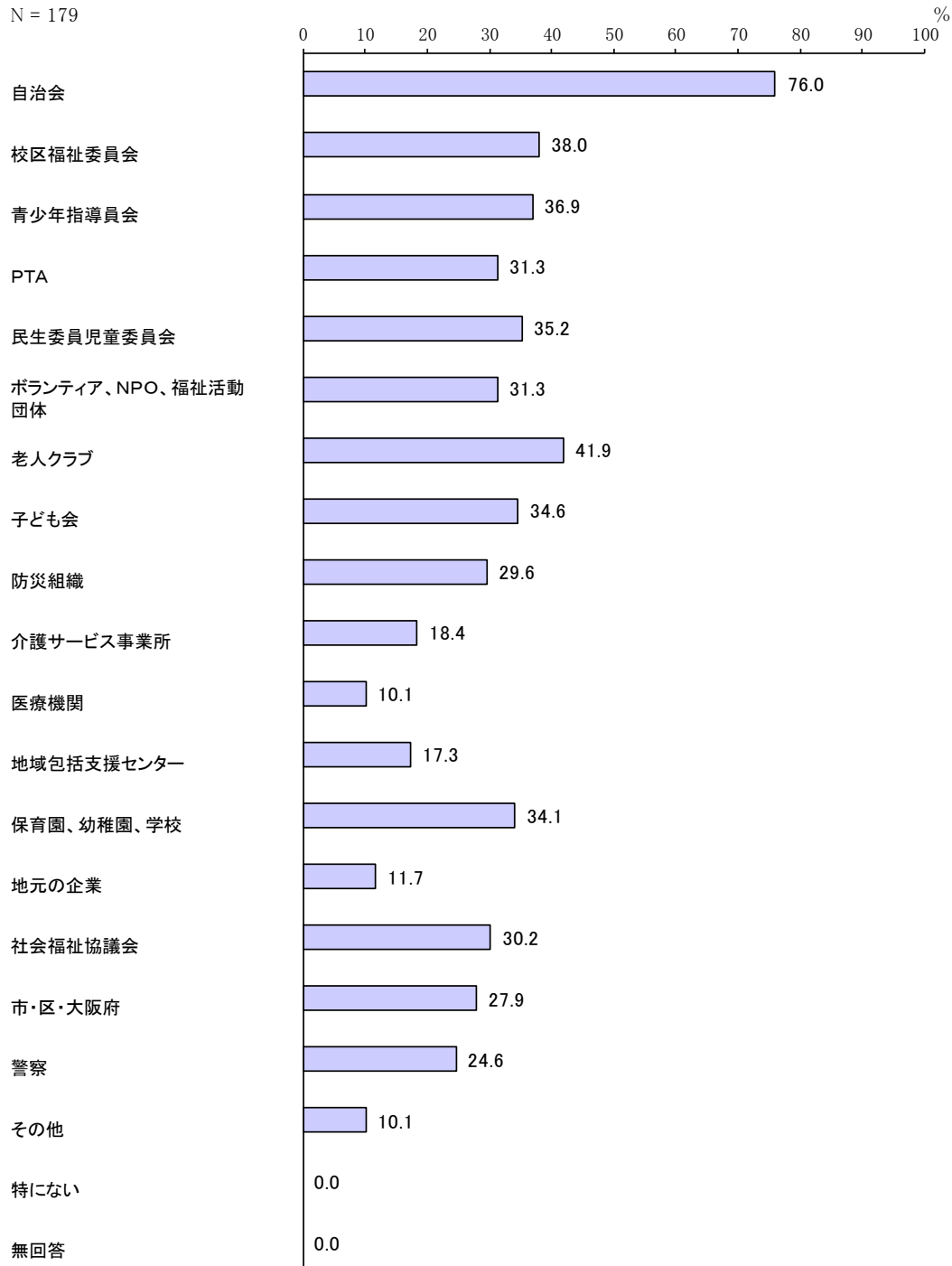
団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「ある」の割合が高くなっています。また、NPO法人で「ない」の割合が高くなっています。



問 前問で「1. ある」に○をつけた団体のみお答えください。協働・連携している（したことがある）団体・組織はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

【全体】

「自治会」の割合が76.0%と最も高く、次いで「老人クラブ」の割合が41.9%、「校区福祉委員会」の割合が38.0%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「自治会」「校区福祉委員会」「青少年指導員会」「PTA」「民生委員児童委員会」「老人クラブ」「子ども会」「防災組織」「警察」の割合が高くなっています。また、ボランティア団体で「介護サービス事業所」「社会福祉協議会」の割合が、NPO法人で「ボランティア、NPO、福祉活動団体」「医療機関」「保育園、幼稚園、学校」「市・区・大阪府」の割合が高くなっています。

単位：％

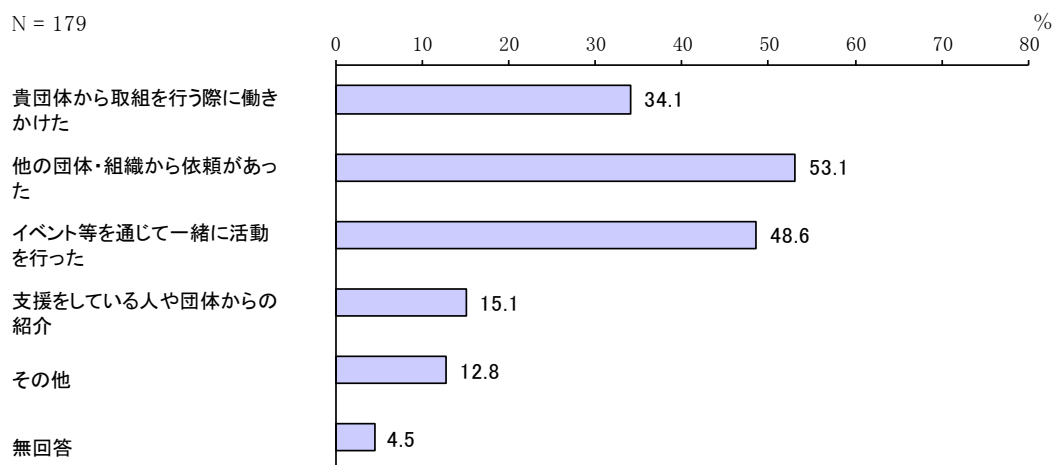
区分	有効回答数 (件)	自治会	校区福祉委員会	青少年指導員会	PTA	民生委員児童委員会	ボランティア、NPO、福祉活動団体	老人クラブ	子ども会	防災組織	介護サービス事業所
地縁組織 (連合・町会)	123	87.8	44.7	48.0	41.5	42.3	27.6	50.4	44.7	39.0	10.6
地縁組織 (各種団体)	4	100.0	75.0	100.0	100.0	75.0	25.0	50.0	100.0	50.0	75.0
ボランティア 団体	37	43.2	21.6	2.7	—	16.2	35.1	21.6	2.7	2.7	37.8
NPO法人	15	53.3	13.3	13.3	6.7	13.3	53.3	20.0	13.3	13.3	20.0

区分	医療機関	地域包括支援センター	保育園、幼稚園、学校	地元の企業	社会福祉協議会	市・区・大阪府	警察	その他	特にない	無回答
地縁組織 (連合・町会)	7.3	17.1	31.7	12.2	22.0	26.0	29.3	9.8	—	—
地縁組織 (各種団体)	50.0	75.0	75.0	25.0	75.0	50.0	75.0	—	—	—
ボランティア 団体	8.1	13.5	29.7	10.8	54.1	18.9	5.4	10.8	—	—
NPO法人	26.7	13.3	53.3	6.7	26.7	60.0	20.0	13.3	—	—

問 他の団体・組織との協働・連携することになったきっかけは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「他の団体・組織から依頼があった」の割合が 53.1%と最も高く、次いで「イベント等を通じて一緒に活動を行った」の割合が 48.6%、「貴団体から取組を行う際に働きかけた」の割合が 34.1%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、ボランティア団体で「他の団体・組織から依頼があった」「イベント等を通じて一緒に活動を行った」の割合が高くなっています。また、NPO法人で「貴団体から取組を行う際に働きかけた」「支援をしている人や団体からの紹介」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	貴団体から取組を行う際に働きかけた	他の団体・組織から依頼があった	イベント等を通じて一緒に活動を行った	支援をしている人や団体からの紹介	その他	無回答
地縁組織(連合・町会)	123	31.7	46.3	48.0	7.3	12.2	6.5
地縁組織(各種団体)	4	100.0	50.0	75.0	50.0	—	—
ボランティア団体	37	27.0	70.3	51.4	27.0	21.6	—
NPO法人	15	53.3	66.7	40.0	40.0	—	—

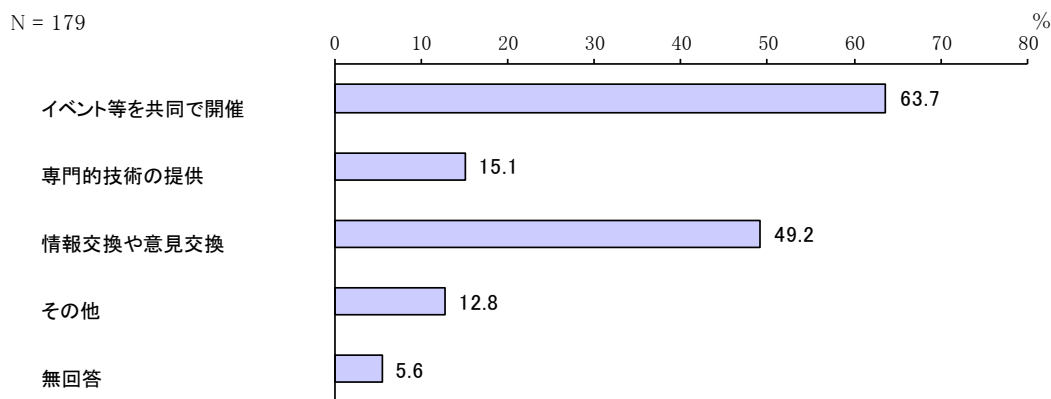
【その他意見】

- ・昔から協働、連携を行っている。
- ・伝統行事などの地域活動を通じて。
- ・大阪府からの働きかけ。

問 他の団体・組織とどのような形で協働・連携していますか。
 (あてはまるものすべてに○)

【全体】

「イベント等を共同で開催」の割合が63.7%と最も高く、次いで「情報交換や意見交換」の割合が49.2%、「専門的技術の提供」の割合が15.1%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「イベント等を共同で開催」の割合が高くなっています。また、NPO法人で「専門的技術の提供」「情報交換や意見交換」の割合が高くなっています。

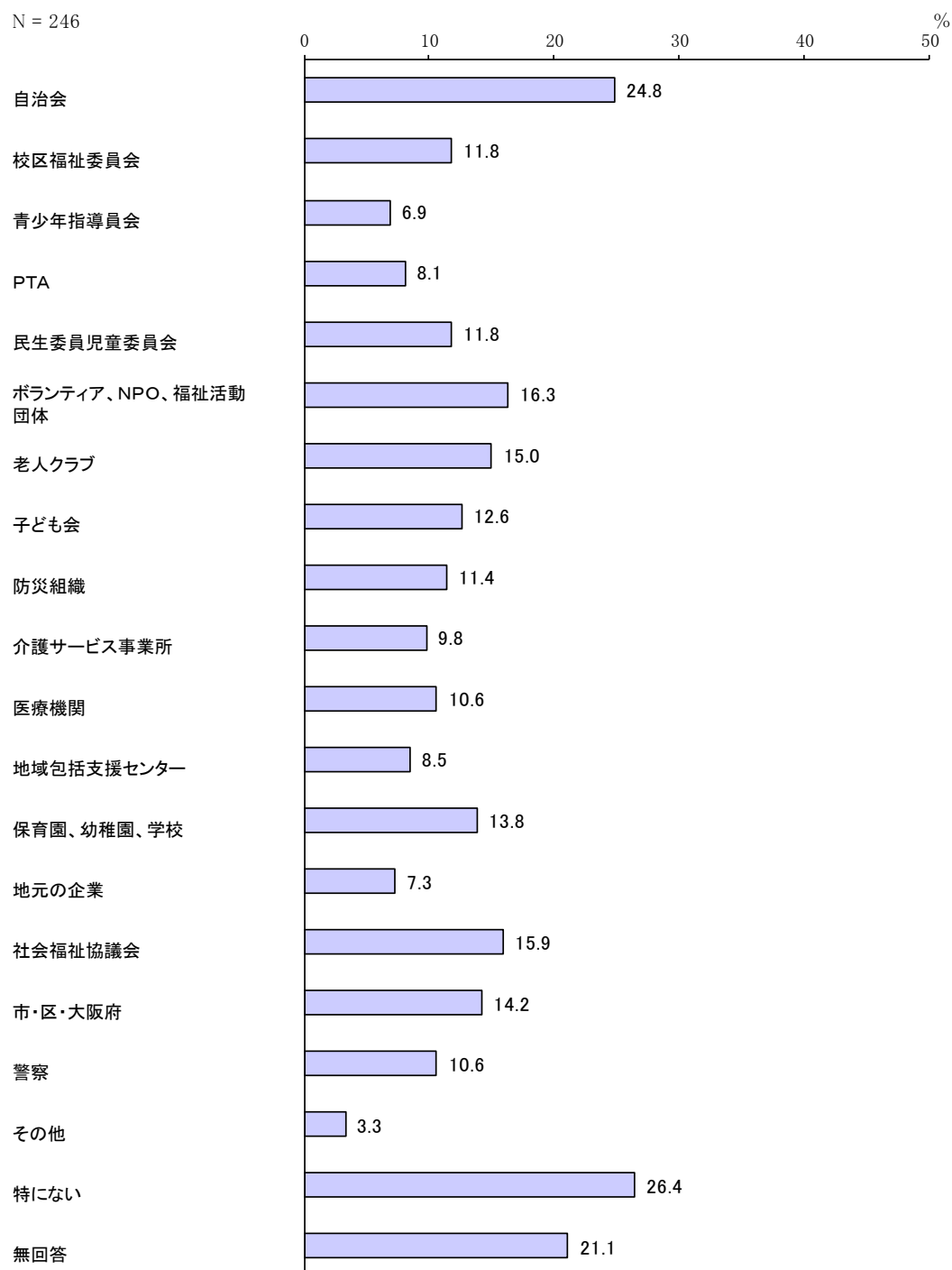
単位：%

区分	有効回答数(件)	イベント等を共同で開催	専門的技術の提供	情報交換や意見交換	その他	無回答
地縁組織(連合・町会)	123	69.1	10.6	55.3	10.6	4.1
地縁組織(各種団体)	4	100.0	50.0	50.0	—	—
ボランティア団体	37	45.9	18.9	21.6	21.6	13.5
NPO法人	15	53.3	33.3	66.7	13.3	—

問 これから協働・連携したい組織・団体はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「特にない」の割合が26.4%と最も高く、次いで「自治会」の割合が24.8%、「ボランティア、NPO、福祉活動団体」の割合が16.3%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「PTA」「防災組織」「警察」の割合が、ボランティア団体で「校区福祉委員会」「老人クラブ」「介護サービス事業所」「保育園、幼稚園、学校」「社会福祉協議会」の割合が高くなっています。また、NPO法人で「ボランティア、NPO、福祉活動団体」「医療機関」「地元の企業」「市・区・大阪府」の割合が高くなっています。

単位：%

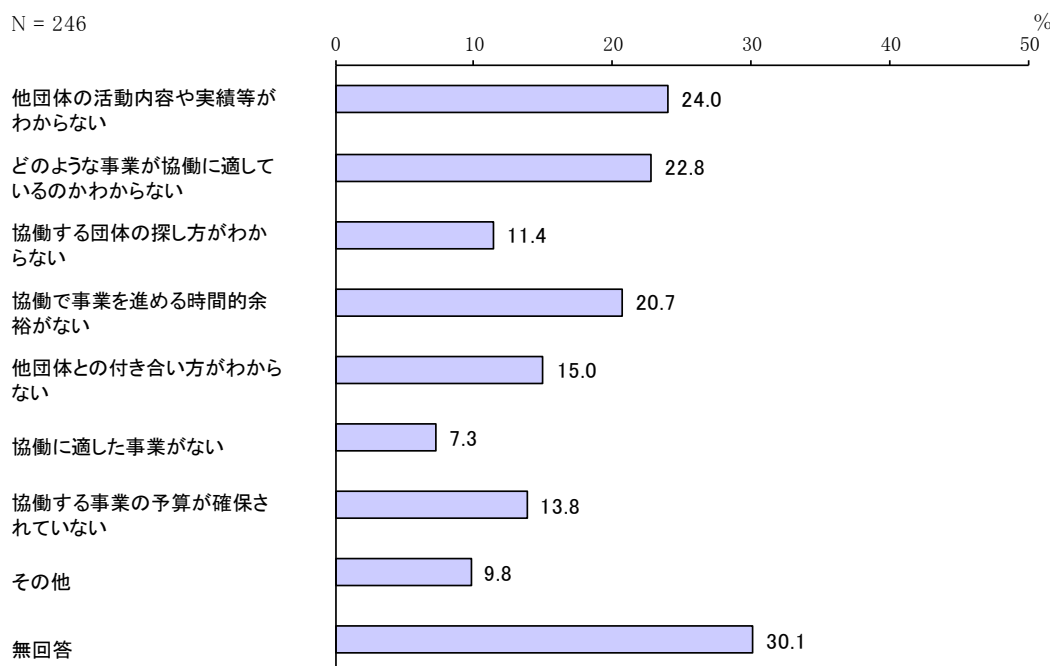
区分	有効回答数 (件)	自治会	校区福祉委員会	青少年指導員会	PTA	民生委員児童委員会	ボランティア、NPO、福祉活動団体	老人クラブ	子ども会	防災組織	介護サービス事業所
地縁組織 (連合・町会)	157	22.9	10.2	8.9	10.2	14.0	12.1	15.3	13.4	16.6	6.4
地縁組織 (各種団体)	5	40.0	20.0	20.0	20.0	—	20.0	—	40.0	—	—
ボランティア 団体	57	24.6	17.5	1.8	5.3	10.5	22.8	19.3	12.3	1.8	19.3
NPO法人	27	33.3	7.4	3.7	—	3.7	25.9	7.4	3.7	3.7	11.1

区分	医療機関	地域包括支援センター	保育園、幼稚園、学校	地元の企業	社会福祉協議会	市・区・大阪府	警察	その他	特にない	無回答
地縁組織 (連合・町会)	10.2	7.0	9.6	6.4	8.3	14.6	14.0	1.9	29.9	23.6
地縁組織 (各種団体)	—	—	20.0	—	—	—	—	—	40.0	—
ボランティア 団体	8.8	12.3	24.6	8.8	36.8	12.3	3.5	5.3	19.3	17.5
NPO法人	18.5	11.1	14.8	11.1	18.5	18.5	7.4	7.4	18.5	18.5

問 他団体・組織と協働して取組を行っていく上で困っていることはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

【全体】

「他団体の活動内容や実績等がわからない」の割合が24.0%と最も高く、次いで「どのような事業が協働に適しているのかわからない」の割合が22.8%、「協働で事業を進める時間的余裕がない」の割合が20.7%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「他団体の活動内容や実績等がわからない」「協働で事業を進める時間的余裕がない」「他団体との付き合い方がわからない」「協働する事業の予算が確保されていない」の割合が高くなっています。また、NPO法人で「どのような事業が協働に適しているのかわからない」「協働に適した事業がない」の割合が高くなっています。

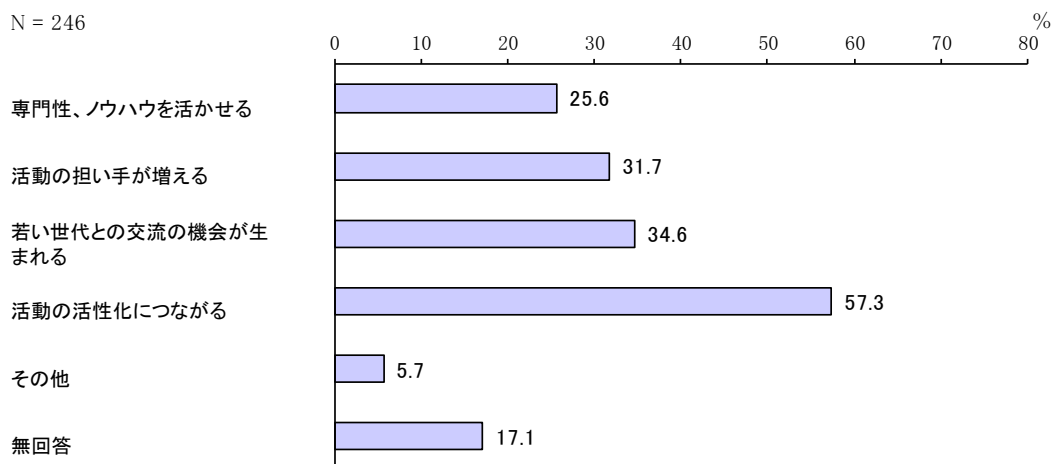
単位：%

区分	有効回答数(件)	他団体の活動内容や実績等がわからない	どのような事業が協働に適しているのかわからない	協働する団体の探し方がわからない	協働で事業を進める時間的余裕がない	他団体との付き合い方がわからない	協働に適した事業がない	協働する事業の予算が確保されていない	その他	無回答
地縁組織(連合・町会)	157	28.7	27.4	10.2	24.8	17.8	5.7	17.2	8.9	25.5
地縁組織(各種団体)	5	20.0	40.0	40.0	20.0	—	20.0	20.0	40.0	—
ボランティア団体	57	15.8	5.3	12.3	10.5	10.5	3.5	5.3	10.5	49.1
NPO法人	27	14.8	29.6	11.1	18.5	11.1	22.2	11.1	7.4	22.2

問 他の団体・組織と協働して取組を行う場合、どのような効果が期待できると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

【全体】

「活動の活性化につながる」の割合が 57.3%と最も高く、次いで「若い世代との交流の機会が生まれる」の割合が 34.6%、「活動の担い手が増える」の割合が 31.7%となっています。



【団体別】

団体別でみると、いずれも「活動の活性化につながる」の割合が最も高くなっています。また、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「活動の担い手が増える」「若い世代との交流の機会が生まれる」の割合が、ボランティア団体、NPO法人で「専門性、ノウハウを活かせる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	専門性、ノウハウを活かせる	活動の担い手が増える	若い世代との交流の機会が生まれる	活動の活性化につながる	その他	無回答
地縁組織(連合・町会)	157	22.3	36.9	40.1	55.4	5.1	14.6
地縁組織(各種団体)	5	60.0	60.0	40.0	80.0	—	20.0
ボランティア団体	57	29.8	21.1	24.6	61.4	8.8	22.8
NPO法人	27	29.6	18.5	22.2	55.6	3.7	18.5

【その他意見】

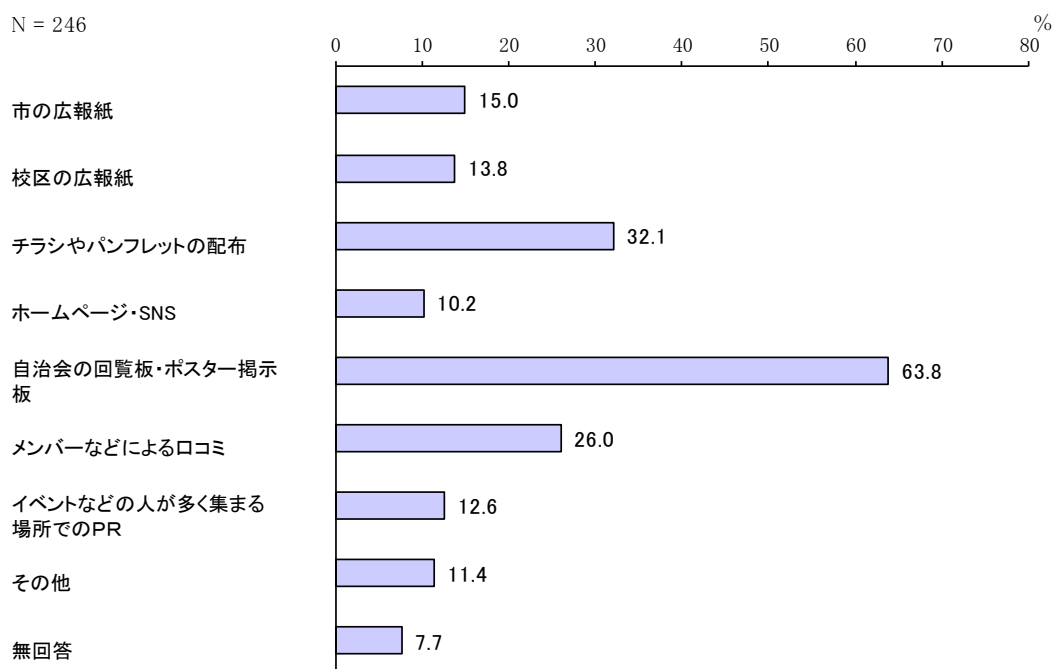
- ・人が交流することで地域の問題を共有。

3 情報の発信と収集について

問 貴団体の活動内容などについて、どのように情報発信をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「自治会の回覧板・ポスター掲示板」の割合が63.8%と最も高く、次いで「チラシやパンフレットの配布」の割合が32.1%、「メンバーなどによる口コミ」の割合が26%となっています。



【住民同士の関わりあいの程度別クロス集計】

住民同士の関わりあいの程度別で見ると、関わりが深くなるほど「校区の広報紙」の割合が高くなっています。また、非常に親しく付き合っているで「チラシやパンフレットの配布」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	市の広報紙	校区の広報紙	チラシやパンフレットの配布	ホームページ・SNS	自治会の回覧板・ポスター掲示板	メンバーなどによる口コミ	イベントなどの人が多く集まる場所でのPR	その他	無回答
非常に親しく付き合っている	15	13.3	26.7	53.3	13.3	73.3	26.7	13.3	20.0	—
親しく付き合っている	88	18.2	17.0	33.0	11.4	65.9	38.6	22.7	10.2	6.8
あいさつをする程度の付き合い	94	14.9	12.8	31.9	6.4	77.7	13.8	3.2	7.4	6.4
ほとんど付き合いはない	31	6.5	6.5	29.0	19.4	29.0	32.3	9.7	16.1	12.9
その他	6	16.7	16.7	16.7	16.7	50.0	—	16.7	33.3	—

【多世代交流につながる活動経験別クロス集計】

多世代交流につながる活動経験別でみると、活動経験がない団体に比べ、活動経験がある団体で「校区の広報紙」「チラシやパンフレットの配布」「自治会の回覧板・ポスター掲示板」「メンバーなどによる口コミ」「イベントなどの人が多く集まる場所でのPR」の割合が高くなっています。また、活動経験がない団体で「ホームページ・SNS」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	市の広報紙	校区の広報紙	チラシやパンフレットの 配布	ホームページ・SNS	自治会の回覧板・ポスター 掲示板	メンバーなどによる 口コミ	イベントなどの人が多く 集まる場所でのPR	その他	無回答
ある	159	15.7	19.5	40.9	8.8	72.3	30.2	15.7	10.1	5.7
ない	75	14.7	2.7	17.3	14.7	46.7	18.7	6.7	14.7	8.0

【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「市の広報紙」「校区の広報紙」「自治会の回覧板・ポスター掲示板」の割合が、NPO法人で「チラシやパンフレットの配布」「ホームページ・SNS」の割合が高くなっています。また、ボランティア団体、NPO法人で「イベントなどの人が多く集まる場所でのPR」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	市の広報紙	校区の広報紙	チラシやパンフレットの 配布	ホームページ・SNS	自治会の回覧板・ポスター 掲示板	メンバーなどによる 口コミ	イベントなどの人が多く 集まる場所でのPR	その他	無回答
地縁組織 (連合・町会)	157	18.5	19.1	34.4	2.5	91.1	17.2	8.3	4.5	3.8
地縁組織 (各種団体)	5	20.0	40.0	40.0	40.0	60.0	60.0	40.0	20.0	20.0
ボランティア団体	57	5.3	1.8	21.1	14.0	15.8	45.6	19.3	31.6	15.8
NPO法人	27	14.8	3.7	40.7	40.7	7.4	29.6	18.5	7.4	11.1

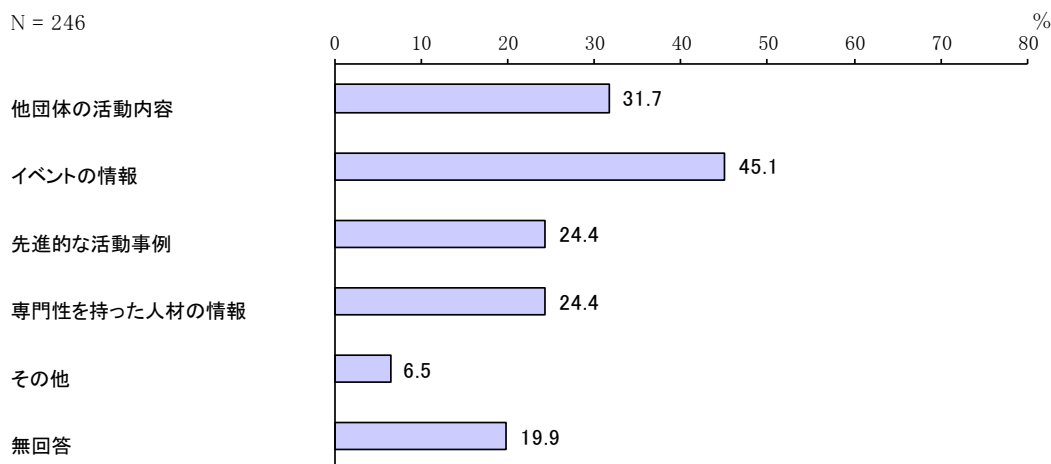
【その他意見】

- ・自治会の広報を毎月発行している。
- ・毎月の校区会議内容を文書で報告し情報を共有。
- ・社会福祉協議会や区民活動支援コーナーでPRしてもらっている。
- ・図書館などにチラシ配架、学校への案内等。

問 活動を進めていく上でどのような情報をもとめていますか。
 (あてはまるものすべてに○)

【全体】

「イベントの情報」の割合が45.1%と最も高く、次いで「他団体の活動内容」の割合が31.7%、「先進的な活動事例」「専門性を持った人材の情報」の割合が24.4%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「他団体の活動内容」「先進的な活動事例」の割合が、NPO法人で「専門性を持った人材の情報」の割合が高くなっています。また、地縁組織（連合・町会）、ボランティア団体で「イベントの情報」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	他団体の活動内容	イベントの情報	先進的な活動事例	専門性を持った人材の情報	その他	無回答
地縁組織(連合・町会)	157	40.1	45.9	30.6	24.2	2.5	16.6
地縁組織(各種団体)	5	60.0	60.0	40.0	40.0	20.0	20.0
ボランティア団体	57	10.5	45.6	7.0	15.8	14.0	31.6
NPO法人	27	22.2	37.0	22.2	40.7	11.1	14.8

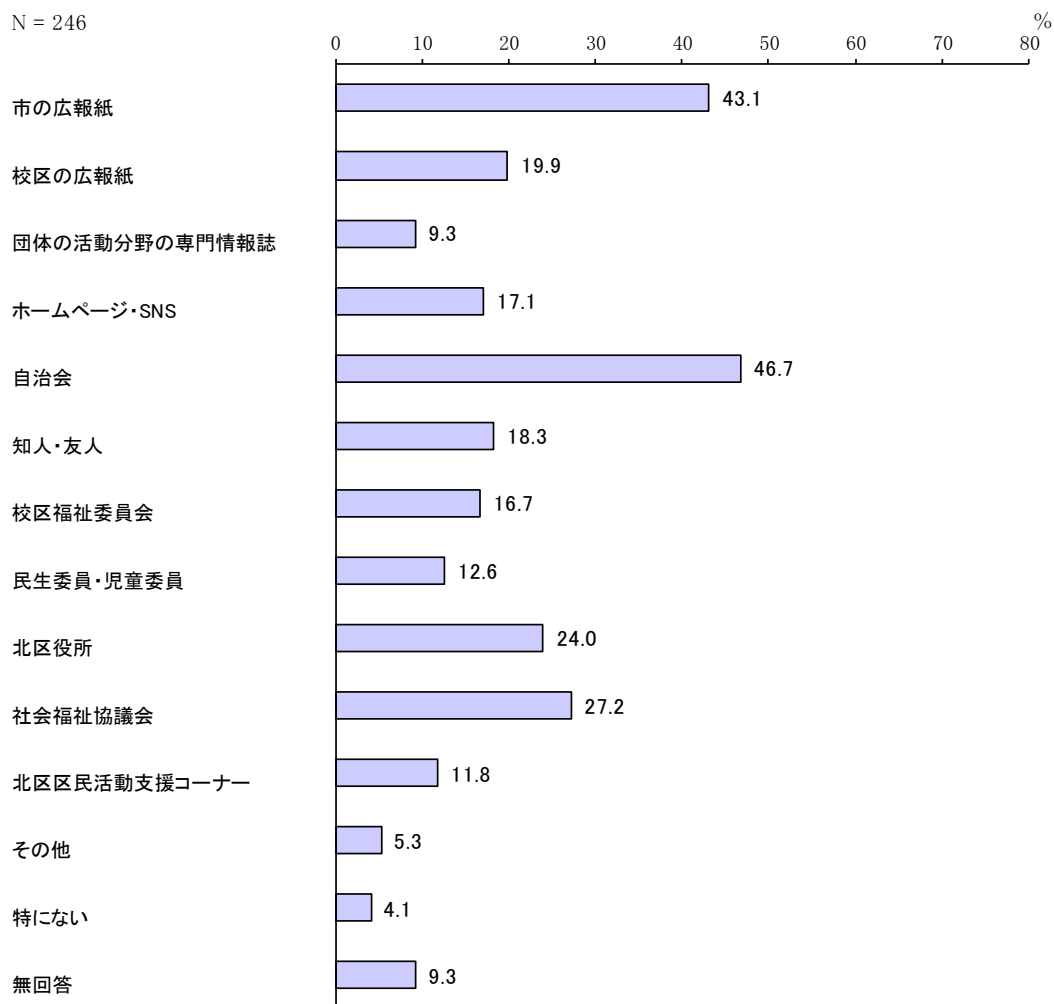
【その他意見】

- ・若い世代が求める情報。
- ・障害者も参加できる様な活動に関する情報。

問 活動を進めていく上で必要な情報をどこから入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「自治会」の割合が46.7%と最も高く、次いで「市の広報紙」の割合が43.1%、「社会福祉協議会」の割合が27.2%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「市の広報紙」「校区の広報紙」「自治会」「校区福祉委員会」「民生委員・児童委員」「北区役所」の割合が高くなっています。また、ボランティア団体で「社会福祉協議会」「北区区民活動支援コーナー」の割合が、NPO法人で「団体の活動分野の専門情報誌」「ホームページ・SNS」「知人・友人」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	市の広報紙	校区の広報紙	団体の活動分野の 専門情報誌	ホームページ・SNS	自治会	知人・友人	校区福祉委員会
地縁組織 (連合・町会)	157	47.1	26.8	5.1	12.1	63.1	11.5	21.0
地縁組織(各種団体)	5	60.0	60.0	40.0	20.0	60.0	40.0	40.0
ボランティア団体	57	29.8	3.5	12.3	14.0	12.3	28.1	8.8
NPO法人	27	44.4	7.4	22.2	51.9	22.2	33.3	3.7

区分	民生委員・児童委員	北区役所	社会福祉協議会	北区区民活動支援 コーナー	その他	特にない	無回答
地縁組織 (連合・町会)	16.6	28.0	17.8	8.9	3.2	1.9	7.0
地縁組織(各種団体)	40.0	40.0	60.0	20.0	20.0	20.0	—
ボランティア団体	1.8	12.3	52.6	19.3	8.8	8.8	14.0
NPO法人	7.4	22.2	22.2	11.1	7.4	3.7	14.8

【その他意見】

- ・堺市市民活動コーナーNews

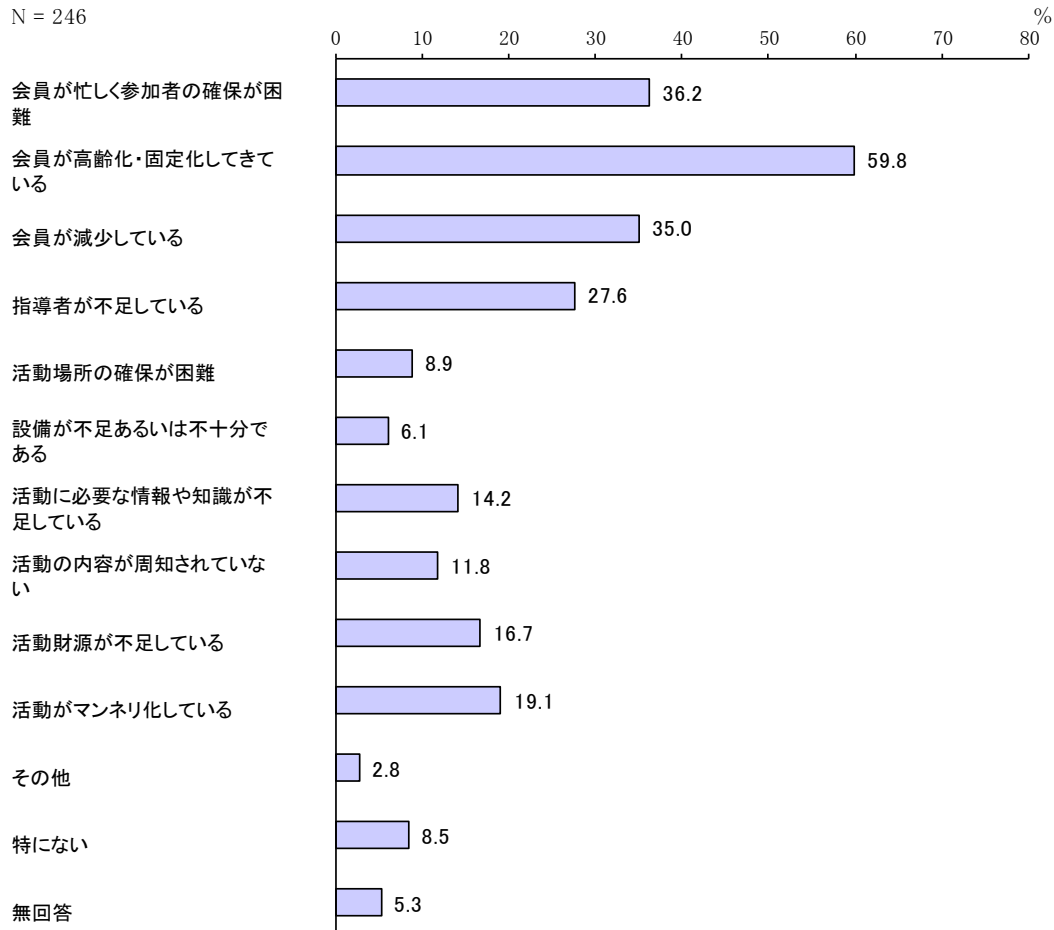
4 その他関連事項について

問 団体を運営する上で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「会員が高齢化・固定化してきている」の割合が59.8%と最も高く、次いで「会員が忙しく参加者の確保が困難」の割合が36.2%、「会員が減少している」の割合が35.0%となっています。

N = 246



【多世代交流につながる活動経験別クロス集計】

多世代交流につながる活動経験別でみると、活動経験がない団体に比べ、活動経験がある団体で「会員が忙しく参加者の確保が困難」「会員が高齢化・固定化してきている」「会員が減少している」「指導者が不足している」「設備が不足あるいは不十分である」「活動に必要な情報や知識が不足している」「活動がマンネリ化している」の割合が高くなっています。また、活動経験がない団体で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	会員が忙しく参加者の確保が困難	会員が高齢化・固定化してきている	会員が減少している	指導者が不足している	活動場所の確保が困難	設備が不足あるいは不十分である	活動に必要な情報や知識が不足している	活動の内容が周知されていない	活動財源が不足している	活動がマンネリ化している	その他	特にない	無回答
ある	159	39.6	70.4	42.1	30.2	9.4	7.5	15.7	11.3	18.2	23.9	3.1	5.0	3.1
ない	75	29.3	41.3	21.3	22.7	8.0	1.3	10.7	13.3	14.7	9.3	1.3	14.7	6.7

【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「会員が忙しく参加者の確保が困難」「会員が高齢化・固定化してきている」「会員が減少している」「指導者が不足している」「活動場所の確保が困難」「活動に必要な情報や知識が不足している」「活動がマンネリ化している」の割合が、NPO法人で「活動財源が不足している」の割合が高くなっています。また、地縁組織（連合・町会）、NPO法人で「活動の内容が周知されていない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	会員が忙しく参加者の確保が困難	会員が高齢化・固定化してきている	会員が減少している	指導者が不足している	活動場所の確保が困難	設備が不足あるいは不十分である	活動に必要な情報や知識が不足している	活動の内容が周知されていない	活動財源が不足している	活動がマンネリ化している	その他	特にない	無回答
地縁組織（連合・町会）	157	47.8	73.2	43.3	36.9	10.8	7.6	17.2	12.1	17.2	25.5	1.9	3.2	2.5
地縁組織（各種団体）	5	20.0	60.0	40.0	60.0	—	20.0	60.0	40.0	20.0	40.0	—	—	—
ボランティア団体	57	10.5	42.1	21.1	5.3	5.3	3.5	3.5	8.8	7.0	7.0	5.3	21.1	12.3
NPO法人	27	25.9	18.5	14.8	14.8	7.4	—	11.1	11.1	33.3	3.7	3.7	14.8	7.4

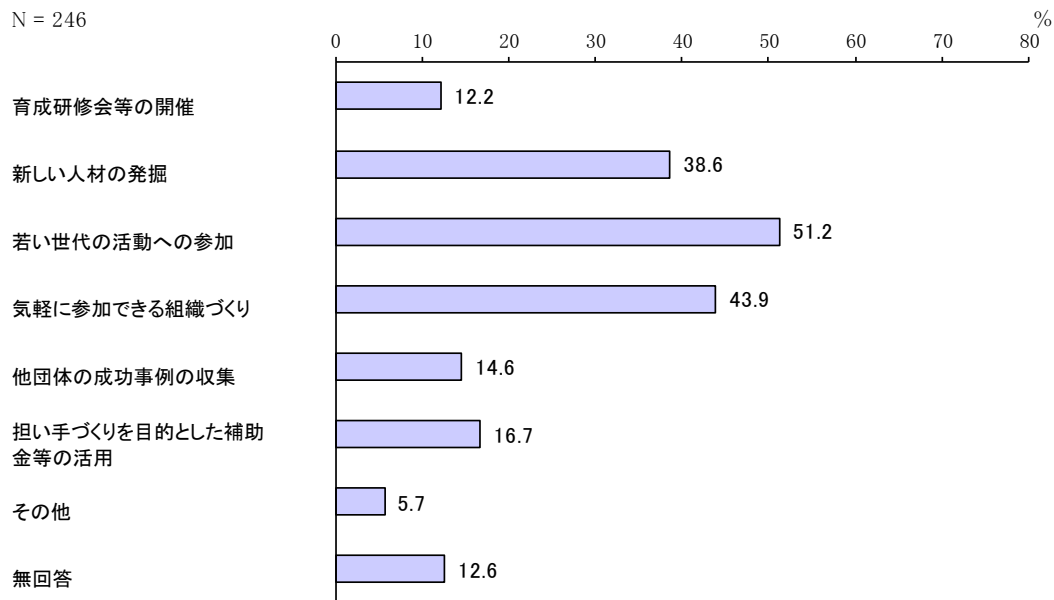
【その他意見】

- ・ 役員の引き受け手が少ない。

問 団体運営の担い手を育成するために、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「若い世代の活動への参加」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「気軽に参加できる組織づくり」の割合が 43.9%、「新しい人材の発掘」の割合が 38.6%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「若い世代の活動への参加」「気軽に参加できる組織づくり」「他団体の成功事例の収集」「担い手づくりを目的とした補助金等の活用」の割合が、NPO法人で「育成研修会等の開催」の割合が高くなっています。また、地縁組織（連合・町会）、NPO法人で「新しい人材の発掘」の割合が高くなっています。

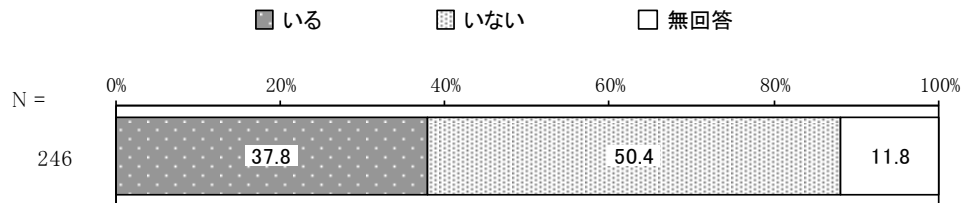
単位：％

区分	有効回答数 (件)	育成 研修会等 の開	新し い人材 の発掘	若い 世代 の活 動へ の参 加	気 軽 に 参 加 で き る 組 織 づ く り	他 団 体 の 成 功 事 例 の 収 集	的 担 い 手 づ く り を 目 的 と し た 補 助 金 等 の 活 用	そ の 他	無 回 答
地縁組織 (連合・町会)	157	10.2	40.8	66.9	50.3	19.1	18.5	1.9	8.9
地縁組織 (各種団体)	5	100.0	60.0	40.0	40.0	40.0	40.0	20.0	—
ボランティア団体	57	8.8	28.1	17.5	35.1	1.8	10.5	15.8	22.8
NPO法人	27	14.8	44.4	33.3	25.9	11.1	14.8	3.7	14.8

問 貴団体の活動を進めていく上で、役に立つ資格や特技を持った人材はいますか。
(1つに〇)

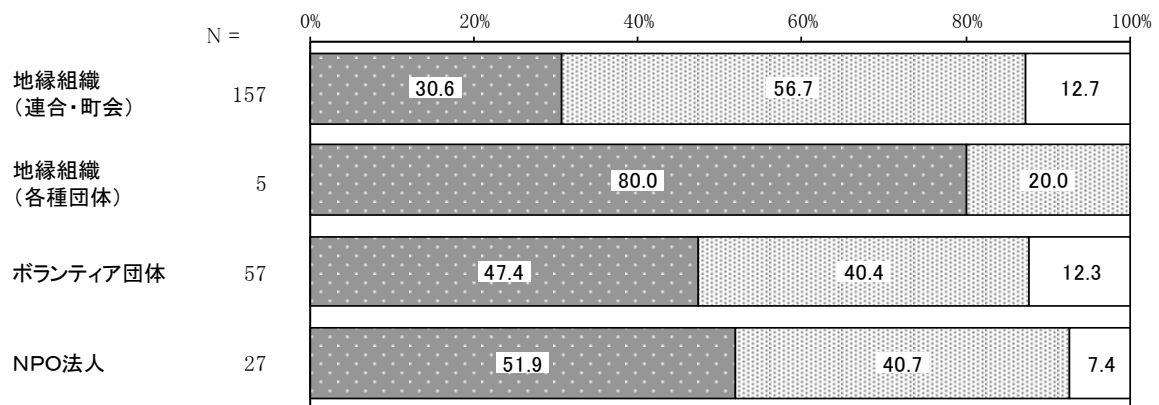
【全体】

「いる」の割合が37.8%、「いない」の割合が50.4%となっています。



【団体別】

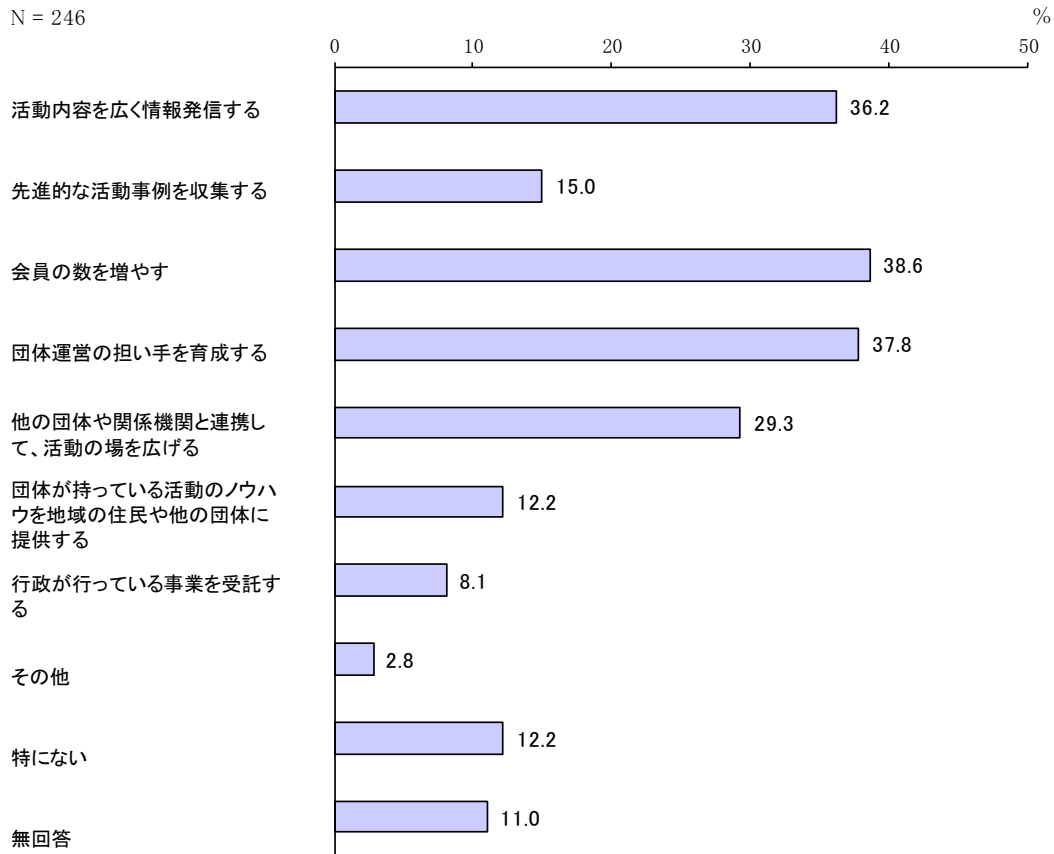
団体別でみると、他に比べ、NPO法人で「いる」の割合が高くなっています。また、地縁組織（連合・町会）で「いない」の割合が高くなっています。



問 今後、貴団体として、どのようなことに取り組んでいきたいですか。
(あてはまるものすべてに○)

【全体】

「会員の数を増やす」の割合が38.6%と最も高く、次いで「団体運営の担い手を育成する」の割合が37.8%、「活動内容を広く情報発信する」の割合が36.2%となっています。



【団体別】

団体別でみると、他に比べ、地縁組織（連合・町会）で「先進的な活動事例を収集する」の割合が、ボランティア団体で「活動内容を広く情報発信する」「会員の数を増やす」「団体が持っている活動のノウハウを地域の住民や他の団体に提供する」の割合が、NPO法人で「他の団体や関係機関と連携して、活動の場を広げる」「行政が行っている事業を受託する」の割合が高くなっています。また、地縁組織（連合・町会）、NPO法人で「団体運営の担い手を育成する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	活動内容を広く 情報発信する	先進的な活動事例を 収集する	会員の数を増やす	団体運営の担い手を 育成する	他の団体や関係機関と 連携して、活動の場を 広げる	団体が持っている活動の ノウハウを地域の住民や 他の団体に提供する	行政が行っている事業を 受託する	その他	特 に ない	無 回 答
地縁組織 (連合・町会)	157	33.1	19.1	38.2	40.8	28.7	9.6	4.5	2.5	11.5	11.5
地縁組織 (各種団体)	5	60.0	20.0	60.0	80.0	40.0	40.0	40.0	20.0	—	—
ボランティア 団体	57	42.1	5.3	40.4	24.6	24.6	21.1	7.0	3.5	17.5	10.5
NPO法人	27	37.0	11.1	33.3	40.7	40.7	3.7	25.9	—	7.4	11.1

Ⅲ 調査結果からの現状・課題について

1 地域住民との関わりと多世代交流活動について

- ・地域住民との関わりが強いと考えられる地縁組織（連合・町会）において、「非常に親しく付き合っている」と「親しく付き合っている」を合わせた“親しく付き合っている”の割合が約4割となっており、「あいさつをする程度の付き合い」の割合が約5割となっています。
- ・地域の住民同士の関わりあいを深めるために必要なこととして、地域住民との関わりあいが強くなるほど、「自治会が中心となって住民同士の交流などの地域活動を積極的に実施すること」の割合が高くなっています。
- ・地域住民との関わりあいが強いほど、多世代交流につながる活動を行っている団体が多くなっていることがうかがえます。
- ・団体と地域住民との関わりあいが強いほど、積極的な地域活動や多世代交流の実施を求めていることがうかがえることから、地域住民との関わりを深めていくための機会を充実していくことが重要であると考えます。
- ・ボランティア団体、NPO法人において、地域住民との関わりあいの程度が弱くなっており、また多世代交流につながる活動も行ったことのない団体が多いことがうかがえます。ボランティア団体やNPO法人が、今後、多世代交流を行っていく上では、地域住民との関わりを深めることが重要であると考えられ、ボランティア団体やNPO法人と地域住民が関わることのできる支援や情報提供を行っていくことが重要であると考えます。
- ・多世代交流につながる活動を行っていく上での課題として、地縁組織（連合・町会）やボランティア団体では「会員が高齢化・固定化してきている」、NPO法人では、「活動の財源が不足している」などが課題として挙がっています。今後、多世代交流を進めていく上では、各団体の課題やニーズを把握するとともに、これらの課題に対し、今後どのような支援が必要となるかを検討していくことが重要であると考えます。

2 活動場所について

- ・地縁組織（連合・町会）や地縁組織（各種団体）、ボランティア団体では、多世代交流で活用している資源としては、地域会館や学校園、公民館など身近な資源を活用していることがうかがえます。北区には、活用可能な地域の資源は多くあるため、これらの地域資源の情報発信の強化が重要であると考えられます。
- ・一方で、NPO法人では、地域の資源を把握していないことや、地域の資源の利用方法がわからないなどの意見が挙がっており、特に地域住民との関わりが弱いNPO法人については、地域資源の情報提供の促進や、地域資源を活用した多世代交流活動の展開を促進していくことが重要であると考えられます。

3 多世代交流を図る上で効果的な取組について

- ・すべての団体において、「地域住民がつながりを持てるような機会や仕組みをつくる」の割合が最も高く、「多世代交流に関する情報を広く発信する」、「若い世代が多世代交流の取組に参加する機会を増やす」などの割合も高くなっています。
- ・多世代交流につながる活動を行っている団体で、「若い世代が多世代交流の取組に参加する機会を増やす」「地域の資源を活用した多世代交流の取組を行う」の割合が高くなっています。
- ・多世代交流を活性化していく上では、ライフステージに応じた対応や、その団体や地域の特性を捉えた取組を行っていくことが重要であると考えられます。

4 他団体・組織との連携について

- ・地域住民との関わりが強い地縁組織（連合・町会）や地縁組織（各種団体）で、他の団体・組織との協働・連携体制をとっている団体は多く、協働・連携体制をとっている団体・組織は、地縁組織（連合・町会）や地縁組織（各種団体）では「自治会」が多く、ボランティア団体では「市・区・大阪府」が多くなっています。
- ・また、多世代交流につながる活動を行っている団体ほど、他の団体・組織との協働・連携が図られていることがうかがえます。
- ・協働・連携の内容については、地縁組織（連合・町会）、地縁組織（各種団体）、ボランティア団体では、イベント等の共同での開催が多く、様々なイベントや活動がきっかけとなり、協働・連携が図られていることがうかがえます。
- ・一方で、NPO法人では、協働・連携体制をとっていない団体が多いことがうかがえます。
- ・これから協働・連携したい組織については、地域住民との関わりあいの程度が弱いNPO法人で、「自治会」の割合が高くなっており、地域との関わりを積極的に持とうという意欲がうかがえます。
- ・協働・連携をとっている団体は、イベント等を共同で開催することが多いことから、今後NPO法人においても、他団体との協働・連携を図っていくことにより、多世代交流をはじめとする地域活動を、より促進することができると考えられます。
- ・他の団体・組織と協働して取組を行っていく上で困っていることとして、「他団体の活動内容がわからない」「どのような事業が協働に適しているのかわからない」の割合が高くなっており、各団体に対して、他団体の活動内容や活動状況などの情報を提供していくことが重要であると考えられます。
- ・他の団体・組織と協働して取組を行う場合の効果として、すべての団体において、「活動の活性化につながる」の割合が高くなっていることから、協働・連携体制をとっていくことが、今後の多世代交流の取組を促進していく上で重要であることが考えられます。

5 情報の発信と収集について

- ・団体の情報発信の方法としては、地域住民との関わりあいの程度が強い地縁組織（連合・町会）や地縁組織（各種団体）では、「自治会の回覧板・ポスター掲示板」の割合が高くなっており、一方でNPO法人では「チラシやパンフレットの配布」や「ホームページ・SNS」の割合が高くなっています。年齢や地域によって、様々な情報提供媒体が今後も必要であると考えられ、情報発信の支援や仕組みづくりの強化を図っていくことが重要であると考えられます。
- ・活動を進めていく上で求めている情報としては、地縁組織（連合・町会）や地縁組織（各種団体）、ボランティア団体では「イベントの情報」の割合が高く、NPO法人は「専門性を持った人材の情報」の割合が高くなっています。他団体の活動やイベントの情報を多くの団体が求めていることがうかがえます。
- ・今後の取組として活動内容を広く情報発信していきたいと考えている団体が多いことから、様々な媒体を活用した情報発信が重要となってくるため、市や区、社会福祉協議会のホームページの活用や、各自治会での回覧板の有効活用など、多くの地域住民に、多くの情報が伝わるような支援や仕組みを検討していくことが重要となります。

6 団体の運営について

- ・団体を運営する上で困っていることとして、地縁組織（連合・町会）や地縁組織（各種団体）、ボランティア団体では「会員が高齢化・固定化してきている」の割合が高く、NPO法人では「活動財源が不足している」の割合が高くなっています。
- ・また、多世代交流につながる活動を行っている団体ほど、「会員が高齢化・固定化してきている」の割合が高くなっています。
- ・団体運営の担い手育成については、地縁組織（連合・町会）では「若い世代の活動への参加」の割合が、NPO法人では「新しい人材の発掘」の割合が高くなっており、若い世代の担い手づくりや育成が必要であり、社会福祉協議会が実施しているボランティア人材の登録など、市や社会福祉協議会の事業の周知啓発とともに、人材となりうる住民への呼びかけ等を行っていくことが重要であると考えます。
- ・またボランティア団体では「気軽に参加できる組織づくり」の割合が高く、各団体が行っている活動に地域住民が参加できる機会づくりを行い、そこから担い手の発掘や育成につなげていくことが重要であると考えます。
- ・今後の取組については、地縁組織（連合・町会）や地縁組織（各種団体）、NPO法人では「団体運営の担い手を育成する」の割合が高く、ボランティア団体では「活動内容を広く情報発信する」の割合が高くなっています。また、すべての団体において「会員の数を増やす」の割合も高くなっていることから、地域住民への活動内容の情報発信支援とともに各団体の運営支援が求められていることがうかがえます。

IV 多世代交流活動事例（団体ヒアリング調査）調査の概要

1 調査の目的

「市民活動団体による多世代交流に関する活動状況及び意向調査」の結果から、特徴的な「多世代交流活動」を行っている7つの団体を抽出し、区内の市民活動団体における「多世代交流」「協生」に関する特徴的な取組事例や活動状況、課題、意向等についてヒアリングによる深掘調査を実施するものです。

2 調査対象団体

五箇荘校区福祉委員会
新浅香山校区福祉委員会
大泉校区福祉委員会
金岡南校区福祉委員会
グッドタイムリビングなかもず
大泉緑地ヒーリングガーデナークラブ
NPO法人子育てネットみちくさ

3 調査期間

平成30年8月21日から平成30年8月30日

4 調査方法

直接対面によるヒアリング

5 多世代交流活動事例 ヒアリング結果

(1) 地縁組織（連合・町会）

【事例1】

団体名：五箇荘校区福祉委員会

活動事例：あさがお交流会

活動場所：五箇荘小学校体育館

活動事例概要

- ・五箇荘小学校の1年生と地域の独居高齢者が、小学校体育館においてコマ回し、けん玉等の昔遊びを通じて交流し、小学生が育てた朝顔を高齢者にプレゼントしている。
- ・1年生の中から実行委員が選ばれ、当日の司会等を担っている。また、1年生全員で招待状を作成し、民生委員が対象の高齢者へ配布。また、終了後も同様にお礼の手紙を配布している。
- ・直近では平成30年7月3日に開催し、小学生96名、高齢者25名が参加。

運営方法

- ・運営の主体は民生委員が担当し、ボランティアの募集も行っている。
- ・当日の進行は小学生の実行委員が担当。事前のスケジュール等の調整は教諭と民生委員が連絡を取るにより実施。
- ・朝顔の栽培キット等の購入費用は社会福祉協議会からの補助金を充てている。
- ・活動の周知については、対象の高齢者へ招待状を案内しているのみ（一般の来場者が無いため）。

活動実施のきっかけ

- ・過去に校区の連合会長が、子どもと高齢者の交流が少ないことを受け、交流会を行ってみてはどうかと発案したことがきっかけである。
- ・活動実施当初から、昔遊びと朝顔をプレゼントするという内容については一貫している。

活動を行う上での工夫

- ・昔遊びの内容は、子ども達が楽しみやすい遊びや危険でない内容へと時代に合わせて見直しを行っている。

課題や問題点

- ・男性の高齢者の参加が少なくなっている。
- ・過去からの参加者がより高齢化してきていることから、参加が困難になっている。

期待できる効果

- ・子どもからパワーをもらって、高齢者の活力になっている。
- ・独居の高齢者を対象としていることから、高齢者同士の新たな交流につながっている。
- ・引きこもり気味な独居の高齢者が地域でつながりを持つきっかけとなっている。

【事例2】

団体名：新浅香山校区福祉委員会

活動事例：新成人お祝いの会

活動場所：新浅香山校区地域会館

活動事例概要

- ・成人式終了後に、地域の高齢者を中心としたスタッフが、新浅香山小学校の卒業生である新成人を対象に、軽食の提供や地域の歴史クイズを出題するなどの交流会を開催している。
- ・直近では平成30年1月8日に開催し、43名の新成人が参加。

運営方法

- ・校区自治連合会の役員や単位の自治会長などが主な運営を担っており、当日の進行は新成人の先輩世代が担当し、事前準備の一部も手伝っている。
- ・スタッフの募集は地域の人への直接の声かけで依頼している。
- ・開催に係る費用は社会福祉協議会からの補助金を充てている。
- ・活動の周知については、自治会掲示板、口コミを主としている。

活動実施のきっかけ

- ・大学進学等を機に地元を離れた若者に、成人式のタイミングで帰ってきてもらう機会とするために開始した。

活動を行う上での工夫

- ・過去の参加者に声をかけ、運営にあたってのキーパーソン（スタッフと新成人をつなぐ役割）を確保している。
- ・地元のショッピングモールと連携し、店舗のクーポン券を提供してもらっている。

課題や問題点

- ・子どもの数が減少しているため、将来的な参加者が少数になることが想定される。
- ・新成人となる住民の把握は個人情報の兼ね合いもあり、人づての情報となるため、対象者数を事前に把握することが困難。

期待できる効果

- ・地域における住民同士のつながりが深まる。
- ・参加する若者に自治会活動を知ってもらうことにより、将来的な自治会加入の促進につながる。

【事例3】

団体名：大泉校区福祉委員会

活動事例：地域交流広場

活動場所：堺市立いこい荘

活動事例概要

- ・小学校の長期休業期間中に、子どもの居場所づくりとして将棋や囲碁での遊びや勉強を行う場を開設しており、そこに地域の高齢者も参加することにより、多世代交流にもつながっている。
- ・平成30年の夏休み期間中は計6日開設し、1日平均で20～30名程度が参加。

運営方法

- ・地域の民生委員が中心になって運営しており、必要に応じてボランティアのスタッフも参加している。
 - ・運営資金については、北区役所からの補助金を充てている。
 - ・活動の周知については、自治会掲示板、自治会回覧板に加え、開設日の朝に地域のマイク放送で案内している。
- また、主任児童委員が家庭を訪問する際にチラシを配布するなどの周知も行っている。

活動実施のきっかけ

- ・活動場所である、いこい荘の有効活用について検討していた際、主任児童委員から長期休業中の子どもの生活状況についての相談があり、子どもの居場所として開設。
- なお、いこい荘は本来、高齢者向けの施設であるため、子どもだけでなく高齢者も一緒に参加できる内容として実施。

活動を行う上での工夫

- ・校区内の他のイベントで作成された作品を使って、会場の窓に飾り付けるなど、少ない労力で季節に合わせた楽しい雰囲気 연출している。
 - ・リピーターとして繰り返し参加してもらうため、過去に実施したプログラムは再度行わないよう企画を練っている。
- また、冬休みの開設時は身体を動かすプログラムにするなど、季節に応じた内容としている。
- ・民生委員内でグループLINEを作成し、連携を密にしている。

課題や問題点

- ・地域における認知度がまだ低いと考える。
 - ・現在は運営スタッフに恵まれているため、実施できているが核となる人物が代わったりすると継続することが困難になる。
- その反面、スタッフが固定化しているため、新たな担い手を確保する必要もある。

期待できる効果

- ・子どもが自ら手伝う姿勢が身に付くなど自主性を育てる一助となる。
- ・地域の中で挨拶をしてくれる子どもが増えるなど、参加者同士のつながりが生まれている。
- ・地域と関わりが少なかった高齢者が、いきいきサロンに参加するなど、地域とのつながりを持つきっかけとなっている。

【事例4】

団体名：金岡南校区福祉委員会

活動事例：三世代交流会

活動場所：金岡南校区地域会館

活動事例概要

- ・子ども（幼児～小学校低学年くらい）、大人（保護者世代 30 歳代が中心）、高齢者（60 歳代以上くらい）の三世代が一堂に会して、人形劇やマジックショーを鑑賞し、交流。
- ・直近では平成 30 年 8 月 7 日に開催し、約 70 名が参加。

運営方法

- ・校区福祉委員会が主催となっており、民生委員も協力している。
- ・運営資金については、校区福祉委員会の予算で実施。
- ・活動の周知については、老人会、こども会、子育てサークルへのチラシ配布、自治会掲示板及び自治会回覧板により実施。
また、日頃からチラシを携帯し、参加対象となる子ども連れなどを見かけた際に直接配布することもしている。

活動実施のきっかけ

- ・例年 8 月に子育てサークルの活動がなく、地域会館の利用も少なかったので、子ども向けのイベントを行うことを検討した。
- ・高齢者が中心となって活動している人形劇団体があり、その活動を地域の高齢者に見てもらうことで自身の活力にしてもらいたいという思いもあった。

活動を行う上での工夫

- ・交流会の冒頭に地域の子育てサークルの代表者に活動の紹介やイベントスケジュールを周知してもらうことにより、参加者と子育てサークルの新たな交流につなげている。

課題や問題点

- ・高齢者の参加者が少なくなっている。
- ・新規の参加者が少なく、子ども世代も小学校低学年を対象としたプログラムとしているため、継続して参加してもらうことは困難。
- ・運営を担う後継者が見つからない。

期待できる効果

- ・地域の住民間で世代を超えた交流が深まる。
- ・交流会をきっかけに地域のお茶会の開催など、新たなつながりが生まれている。

【事例5】

団体名：グッドタイムリビングなかもず

活動事例：クロスエイジプロジェクト

活動場所：グッドタイムリビングなかもず 他

活動事例概要

- ・有料老人ホームの入所者と大阪府立大学の学生が施設のイベントや学園祭を通じて、多世代交流を行っている。
- ・学生が入所者にイベントを提供するだけでなく、入所者が学生に麻雀を教えたり、戦争体験を話したりすることで相互に関わっている。

運営方法

- ・施設でプロジェクトの担当スタッフを選任しており、学生リーダー1名と月に1回のミーティングを行っている。
なお、大阪府立大学とは正式に提携等をしておらず、あくまで学生有志との連携に留まっている。
- ・イベント開催に当たっては、施設スタッフが主で運営し、学生はボランティアとして参加している。
- ・活動の周知は、入所者へは施設内のエレベータやレストランにイベントの案内を掲示し、直前にはスタッフが直接声かけをしている。
学生に対しては、学生リーダーにロコミで発信してもらうほか、施設に併設の学生寮の掲示板にて周知している。
また、施設で発信しているブログに記事を掲載することも行っている。

活動実施のきっかけ

- ・施設に併設されている学生寮と何か関わりを持つことができないかという思いからスタート。

活動を行う上での工夫

- ・あくまで学生はボランティアであるため、次回も参加してもらえるよう学生自身にも楽しんでもらえるよう気遣っている。
また、答えは見出せていないが、学生にとってのメリットを意識している。

課題や問題点

- ・学生は忙しいので、継続して参加してもらうことが困難であり、運営が不安定。
- ・正式に大学と連携している訳ではないので、今後のつながりを強化することが必要であると考えている。
例えば、参加することで大学が単位を取得できるなどの学生にとってもメリットのあるものにしたい。

期待できる効果

- ・学生は入居者の孫世代に当たるため、非常に良い刺激となっている。

(2) ボランティア団体

【事例6】

団体名：大泉緑地ヒーリングガーデナークラブ

活動事例：公園散策ボランティアでの大学生との交流

活動場所：大泉緑地

活動事例概要

- ・大泉緑地の近隣の老人ホーム等に入所・通所している車椅子利用の高齢者や障害者をゲストとして招き、公園散策を行うボランティアを行っており、桃山学院大学の学生がスタッフとして参加することで、多世代交流につながっている。
- ・単に公園散策するだけでなく、施設側の希望に応じて音楽の演奏や大道芸などをプログラムに組み込むこともある。
- ・4月から12月（夏季を除く。）の間に活動し、年間14回程度活動しており、1回当たりの参加者は10～20名程度。

運営方法

- ・ゲスト数にもよるが、基本的には団体のスタッフが担当し、対応しきれない場合は施設のスタッフにも協力を仰いでいる。
- ・桃山学院大学の学生がフィールドワークとして参加し、スタッフとして従事している。毎年3月に大学にスタッフの募集を行い、5月に研修を実施している。
- ・運営資金は団体の会員からの会費のほか、社会福祉協議会からの助成金がある。

活動実施のきっかけ

- ・団体自体は大阪府が実施した高齢者が障害者に公園を楽しんでもらうためのボランティアを養成する講座から発足したものである。大学との連携の一環として、桃山学院大学の教授を通じて、大学生スタッフに受け入れを始めた。

活動を行う上での工夫

- ・ゲストと一緒に“公園を楽しむ”という感覚を持つことで、より良い散策・案内につながる。
- ・施設との事前打合せの際、参加者の状態を把握するための「健康メモ」を作成してもらい、参加者ごとの安全面に配慮している。

課題や問題点

- ・団体の会員数が減少している。
- ・大学生の参加が少なくなっているため、新たな大学へのPR等を行う必要がある。

期待できる効果

- ・大学生に参加してもらうことにより、スタッフもゲストも若い世代と交流することができる。
- ・施設のスタッフからは、外出することで良い変化（食欲が増す、熟睡できる等）が見られるとの感想がある。

(3) NPO法人

【事例7】

団体名：NPO法人子育てネットみちくさ

活動事例：子育てひろばでの高校生との交流

活動場所：市内で開設の子育てひろば（2か所）

活動事例概要

- ・子育てひろばに、近隣高校の生徒が夏休み期間中にスタッフとして参加し、ひろば利用者（未就学児と保護者）と交流している。
また、大学生がマジックを披露するなどの参加も行われている。
- ・近隣高校の夏休み期間中に常時参加があり、1日当たり2名程度の生徒が参加している。

運営方法

- ・子育てひろば自体は常設であり、高校生が参加する際は通常の体制に必要に応じて1名追加することに対応している。
- ・過去の利用者で子育てがひと段落したタイミングで運営スタッフとなることもある。
- ・資金面については、市からの補助金又は委託料によって運営している。

活動実施のきっかけ

- ・過去、市の事業で「まちかど子育てサポートルーム」が行われていた際、高校の空き教室を開設場所としていた。
その際、保育に興味がある生徒からの声を受け、何かできることがないかを考えたことがきっかけとなった。
- ・子育てひろばという運営形態になった現在も、高校との関係性が維持されており、事業として継続している。

活動を行う上での工夫

- ・各高校の教師に窓口となってもらい、参加者の調整作業等を担ってもらっている。

課題や問題点

- ・公立高校との連携は自由度が少なく難しい点が多い。

期待できる効果

- ・運営スタッフは60歳代が多く、利用者は未就学児と保護者世代であり、間をつなぐ世代があることで交流につながる。
- ・中高生の時期に乳児と関わりと将来的に虐待する可能性が下がるというデータがある。